

三河東泉記  
全

天正二年ノ事也

一 足助山中へ甲州勢忍ニ来ト聞ヘテ岡崎猿サ

、ラ等被遣、タバカリテ承届参本多平八先手

トシテ押落、此子細ニテ于今猿サ、ラハカセ

候式十人ニ屋敷被下置候

一 妙国寺前ニ日東案内橋ト云有、家康公渡利より

小豆坂迄御越之時妙国寺案内申ニ付、家康公

此橋案内橋と被仰候

一 岡崎城主本多豊後守、元和年中に亀蔵と申草

履取、奥ニ仕候腰本(元)ふくと申女密通シケルヲ

吟味し、岡崎六本松ニ而二人トモカラメ置、十日

に手爪ヲハナシ十日ニ指ヲ切廿日ニ足ノ爪

指ヲ取ハナシ一日ニ両眼ヲくり出し二人共

に成敗シケリ、此二人我料科ト云ナガラ七代ニ

ハ、タ、リタヲサント云、此後城ニアラユルケ

ザ、ヲナシ、因茲六供ニテ護摩ヲ焼候得ハ、其

煙之内に二人急度立居タルスガタアリ／＼ト

諸人見シ、其頃豊後守家中に新参古参迎あり

し、古参岡崎能見山ニ愛宿山岩ニと勸請申、新参龍

海院山ニ而アタゴ山ト北南勸請申、此時亡魂

ヲサマリ、因茲アタゴノ宮ヲ龜藏宮トモ云此義

也、扱亦豊後守殿亡目ノ子壺人、両手ノ指無之

子壺人、口ノユガミタル子壺人有之、此等ハ龜・

フクガ業と沙汰シケリ、于今、若宮并神明、其後

立シ両アタゴ有之、業ノホドコソ、ヲソロシケ

レ

一 荒井今切、明応八年六月十日地震ニ崩れて湖

水ト成ル

一 岡崎投町若宮并観音之由来、元禄六年ニ再興有之、并鳥

居北向ニ成立、昔此所根石原と云、則観音堂ア

リ、天正七年頃岡崎三郎信康公、同御母築山殿

御生害ニ付、信長公家康公ヨリ御吟味アリ、御

家中親子方逆、家康公ハ信長方、信康公ハ勝頼

方也、御家中勝頼方江逆心無之旨身血ニテ起

精文(請)ヲ書申逆、投村但其頃ハ大塚村と云、此観

音之前ニテ書ケリ、今之東之方田之处、其頃野

ニ而此所ニ而書シ、其後三郎信康公同御袋築

山亡魂御城へ色／＼ケザシアリシ、諸寺院ニテ

御祈念御弔アリシガ、シヅカナラズ、此時観音

堂森ノ内ニ若宮八幡と勸請と申達、御袋様ハ

四十間北に神明と勸請申奉候得ハ終ヲサマ

河ノ城住ス

リ、此以後若宮八幡トモ又起精宮トモ云、神明八岡

一 攻家下野守親康左兵衛——小河ノ城へ移一 攻傳太郎——大濱住忠

崎城主水野監物殿御代正保時代掛山ニ移奉

輔傳太郎左近康正右近

ル

一 持統天皇、三川ニナガサレ、イラゴニ神トイハ

一 矢作宿ニテ業平七色ニ咲桜アリ、此ヲ見テヨ

イ奉ル、イラゴ大明神是也

ミ玉フ、(給)此所ヲ今ニ桜ガイト云

大岡弥四郎逆心之事 大賀ニ名アリ

一 同村古寺ノアト東光坊宝珠庵誓願寺

一 大岡弥四郎と申者、家康公御馬取ニ而<sub>ニ</sub>有し

一 同村牛頭天王ノ宮アリ

が、境目より或ル時長瀬へ御出、直ニ川ヲ越シ大

石川氏伝イキニ、河内国ヨリ一向蓮如上人ト三州

樹寺へ御入之時、折節川出、鹿が渡し之瀬ブミ

へ来リ、(やつおもて)八面ノ石川ニ住ス、後小河ノ城ヲ取、小

スベキ者ナシ、川赤ニゴリ、アハ高シ、此時大岡

弥四郎一番ニ川ニ飛込候得バ、殊之外川浅ク

シテ無難越タマイ、此褒美ニ始而式百石被下、

後五百石ニ増ス、岡崎能見ト云所ニ屋敷拝領

仕、中根肥後守ト聳ニ成、岡崎三人之町奉行成

候、一大岡弥四郎、松平新右衛門、江戸右衛門八

ト承ル

一 此節家康公濱松被為成御座、天正三年ニ岡崎

ニは三郎信康公御守小河之城主石川備前守、

平岩七之助等也、家康様御前(築カ)月山様ハ菅生之

ツキ山ニ御屋敷有リ、信康公御屋敷城外北東

ニ当リテ有リ、今ノ久右衛門町也、此節御前(築カ)月

山様御留主(マ)ニテ、殊ニ御中(他)も不和成シ、其節甲

州より口ヨセミコアマタ来テ家中町村ヲ廻リ

口ヲヨセケリ、此時勝頼ヨリミコヲダマシ月

山殿ノ御内ニテ下女に色／＼トラセテ取入り

下女より中間ニ取入後ハ奥上藤達迄ニ色／＼ノ

進物ヲ致シ取入、終ニハ御前様御目見へ申上、

能取入折節見合申上ルハ、若御前様ニ今度勝

頼と御一味ナサレハ(老カ)口御前ハ天下ノ御台と

備天下無双ニ可仰、若殿ハ若君ト仕天下ヲ可

相讓と申上ル時、其頃西慶と申唐人医有リテ

有らバ何様ニも一味可仕、是非〳〵頼入之由、誓

御屋敷へ節々出、御前様ノ御意ニ入、是ヲ談合

言シテ申ケル、此時九郎左衛門山田八蔵ヲ一

マキ入、大將分ハ大岡弥四郎掛村<sup>(次)</sup>ニ居申、松平

味シケリ

新右衛門、江戸右衛門八、渡利村之小谷九郎左

一 逆心之タクミハ岡崎ノ城ヨリ南ノ方ノ吉良

衛門大將<sup>ニ而</sup>申合、勝頼より知行之御判取カタ

庄<sup>ニ</sup>幡百本ホド、并人数ヲ見セカケテ甲州勢

メ申也、時<sup>ニ</sup>其頃、此処三字不知城主ハ鳥井久兵衛

ヲハ城ヨリ北足助大樹寺口ヨリ引入、城中ニ

<sup>ニ而</sup>小谷も此家来也、奉輩<sup>(册)</sup>ニ山田八蔵と云者

テハ南表へサバキ出ル所ヲ見テ、北口ヨリ押

有リ、或時此者ヲ九郎左衛門別<sup>而</sup>入魂ナレバ、

入、城ヲカタメ城外ヲ放火シテ弥甲州勢ヲ入、

其方なども某共と万事一味も有之ハ、終<sup>ニ</sup>ハ

三河ヲ甲州へ取ルタクミ也、此義九郎左衛門

欠綏モせ可申ト申、此時山田八蔵悦、左様之義

山田に咄ケレバ同心ニ罷成、勝頼より二万石ノ

御判ヲ取申也、ツク／＼思案仕ニ、代々ノ主筋に

一

其時掛村ニハ柴田右森一家共、親新吉郎右衛門と申松平新右衛門

弓引テハ、子々孫々迄悪名ヲノコシ天罰モイ

等集リテ、鹿ガケニ的ヲ射ケル所ニ、此鹿斗ニ

カ、トヲモイ、早速岡崎ニ来、御目付衆ヲ老人申

テハイカ、アルベシ、少酒ヲ吞タラヨカラシ

請、渡り村ノ宿所ニ入テ座敷隔隱置き、九郎左

ニ、イザヤ酒ヲ買ニ可遣ト、下男ノ小者ニ申付

衛門ヲ酒ニ而呼、弥々カタメ可申次第日限迄

岡崎へ酒ヲ買ニ参ル処ニ、殊之外ヲソクシ待

御咄人数も有増、御咄候へと申ケレバ九郎左

兼、鹿シクイカ、ル所ニ来候へハ、皆々何迎ヲ

衛門右次第咄申ヲ、右之御目付一々書付岡崎

ソク来ト、トジメケレハ、今日大岡弥四郎逆心

に帰役人ニ言上申所ニ驚、早速大岡弥四郎所

ニテ、アラワレ生捕ニ付、町中サハギ家並ニ戸

へ押込、弥四郎生捕検断仕候得バ、奥に旗ヲ十

棚閉申ニ付、漸只今買参ト咄ケレバ、松平新右

本拵置タリ

衛門ハ是聞少シモサハガスシテ、鹿汁ヲ二三盃クイ、

酒シタカニ呑、互ニ宿ニ歸ル、新右衛門ハ、同

村ノ百姓助右衛門ト云者ノ所ニ至て、ヨリシ

モ十月之事にや、俵ヲアミテ居ケリ、新右衛門

様御出と見て、俵ノ新敷ヲ馳走ニシキ置候へ

ハ、古キ阿ミ笠とコギノヲ壺ツ借りテ差シ、浦

ノ垣ヨリ落ニケリ、然ル所ニ平岩七之助方四

五十人召連懸時<sup>(ママ)</sup>ニ御急候ヲ、助右衛門見テ不

審思処ニ、新右衛門屋敷へ押寄候得ハ、宿ニイ

ズ、ソレヨリ柴田右森聳ナレハ此処ニ押寄、新

右衛門ヲ出セト被申ケリ、右森神モ私努々不

存給そと申、大小ヲヌキ、平岩主斗殿へ相渡候

得者、主斗聞届歸り言上申、家康公捨置ヨ、新右

衛門ハ退者ニアラス、被仰候へハ、翌日大樹寺

ノ正運ニテ切腹仕と言上申、家康公御聞如

何ニも左様之筈被仰出候

一 渡利村小谷九郎左衛門方へ、庄屋仁左衛門ニ

少内證ヲ聞テ不便ニ思イ、親子小谷九郎左衛

門よびニゴリ酒ヲ出シ、<sup>(ママ)</sup>終ノナマスヲ肴ニ出

シテ酒ヲ振舞、件ノ内談申候「得者カ」子ハ聞て色

替酒モ肴も不呑居ケリ、九郎左衛門少もサハ



ガズ、扱も忝義内證と申、ナマスニ皿クイテ、イ

而生レ、我聲ニナシ候よし申候

トマゴイト申て、ニゴリ酒を汁腕に二三盃ス

一 山田八蔵ニ者柿崎五百石為褒美被下、後大濱

ツバト吞、浦垣退ニケリ、其内ニ岡崎より百人計

上地ヲ被下候

来、九郎左衛門屋敷ヲ取廻候へども立退、居不

一 小谷九郎左衛門、鳥井久兵衛、家老ノ小谷甚左

申候へハ、ムナシク帰ル、家内ニ、サスガニ簀三

衛門養子ノ者也、此甚左衛門も鳥井殿（隙カ）□ヲモ

本雪隠ノ灰ノ中ニ入置タル見出シケリ

ライ、薩摩様ニ而千石取、無子シテ絶ケリ

一 大岡弥四郎連尺町大辻ノ此所ニテ、七日ニ竹

一 月山様（築カ）ハ関口形部殿御息女、御姫子様ハ信長

ノコキリニテヒカレ、根石原父子五人斗ハリ

公御息女ニテ、兼而御中モヨカラズ、信康公ヨ

付ニアガリ、江戸右衛門八切腹被仰付、腹の内

ウシヲトサセタマイシトキ、御前様ニ御取タ

子母逃テ新堀村ト申所ノ本多又左衛門（所ニカ）□

マハレト、御申候へハ、御返事モナクシテ御座

アリシトキ、信康公、局ヲ大キニ御シカリ、諸事

居、主斗ハ跡絶ケリ、月山様ハ野中三五郎(築カ)今ハ水戸

仕付悪敷ニヨリ如此ト被仰候ヘハ、其事ヲフ

ニ有酒井圖書水戸今ニ有被仰付自殺也

クレテ信康公ノ御事ナケ状書テ信長公遣シ

一 小河城主石河修理亮子豊前守一同切腹被仰

ケリ、信長公ヲドロカセ給イテ、家康公御家老

付候

ヘ申来、御袋ツキ山様ト御一味ノ義アラハレ、

一 柱村ニ鑓シヤウシト云アリ、八弥鑓持、家康

信康公遠州ニ(ふた)マタ清立寺テ、天山山城守カイ

公出向、大力者ナレトモ、家康公ニニラメラレ

シヤクテ切腹被成、大久保七郎右衛門、二亦ノ

シヲノト退所也

城主平岩七之助、此兩人檢使(死)、成瀬吉蔵、服部中

一 奈良興福寺ニ二万五千石九十三軒、寺中両宮様

務等ナリ、然間、大久保七郎右衛門、平岩主斗両

二軒、右寺僧之内ニ、法蔵院七十石朱印有、謙鑓(謙)

人トモ此ムクイニテ相模守と申、小田原ニテ落

代々免出ス家也、惣坊と申寺中同七十石有、南

部諸白造日本賣申候、本名酒也

一 大神宮へ桑名より四日市へ三里、神戸へ二里、上

野へ二里、津へ二里、雲津へ二里、松坂<sup>(ママ)</sup>へ二里、小

畑へ四里、山田へ一里、<sup>しめ</sup>十九里也

一 渡利村孫左衛門と申者、娘おたつと申、家康

公御乳<sup>ラ</sup>上ケ申、隋念寺御咄也

一 御宿左衛門今川ノ家人、駿州高福寺ノ城<sup>ヲ</sup>預

り、三州安城ノ城<sup>ヲ</sup>攻、今川落居ノ時上方<sup>ニテ</sup>

上り、御宿越前守と申、大阪籠、末甲府様<sup>(跡)</sup>ニ有リ、

犬塚名字之伝、紋桐ノトウ団扇之内ニ鳳ノ

一字付

一 二ノ宮宝村茶臼山ノ城<sup>ヲ</sup>大蔵之城となつて、

城主大高弾正と申<sup>ヲ</sup>御攻之時、山城<sup>(ママ)</sup>城シニヨ

リ山ギハ迄押寄候へハ、城内ニ大石ヲ置<sup>ヲ</sup>ビ

タ、敷落掛、諸兵退散ス、此時二ノ宮ノ家人大

岡小次郎と申者、彼ノ城へ忍入伏隠、終ニ大将

弾正ヲ打取、然共、其身モ相打死ニス、此時二ノ

宮、彼<sup>者</sup>大岡<sup>ヲ</sup>改犬塚と被成、江原ノ江<sup>(郷)</sup>ニ其塚

ヲ、尔今犬塚迎有リ、其後江原城主江原丹波守

組<sup>ニ</sup>成、其子二人、惣領は犬塚又内、弟善兵衛と

城有て、信玄味方ヶ原帰陣<sup>ニ</sup>、ウ利ノ谷より三万

申候、丹波守ハ今川<sup>ニ</sup>属シ桶バサマ<sup>(ハザマ)</sup>ニテ打死、

余<sup>ニ</sup>而攻申時、城ヲ相守扱<sup>ニ</sup>而済

犬塚又内末、酒井雅樂頭殿内<sup>ニ</sup>有之

一 左ノ方田中藪ノ内ノ古城上コサイトアリ、是

一 異、犬塚ハ吉良コミノ城主<sup>ニ</sup>テ、乱来立退合歡

ハ新人、後御移ル、勝頼俄攻、タマラスシテ南大

木村、永録三年犬塚平右衛門是也、系図江原<sup>(ママ)</sup>

庭より西江<sup>(郷)</sup>ニ退

取也

一 河ヲ上りて左古城ハ、家来菅浪小大膳居城也<sup>(沼)</sup>

一 野田菅沼ハ六代新人迄有、其以前ハ城主富永

一 長篠ハ菅沼新九郎、後、奥平九八、五百余<sup>ニ</sup>而堅

<sup>ニ</sup>而死、跡絶申<sup>ニ</sup>付、家老共来り、田峯ノ菅沼ノ

固ニ守ル、勝頼イ王寺<sup>(ママ)</sup>ニ陳取、壺万弍千<sup>ニ</sup>而攻

二番子ヲ備、自是号菅沼

ル、鳥井す祢右衛門川より忍出候事

一 野田ノ町<sup>ニ</sup>往、右ノ方<sup>ニ</sup>在之古城也、新人郎籠

一 此時長篠東南<sup>ニ</sup>当り飛巢<sup>トビノス</sup>ニハ、勝頼武田兵庫

押ニ置、岡崎ヨリ酒井左衛門参り合戦候

一 家康公船ニ而幡豆御働、走付と申所ニ着岸、其

一 此時、家康公同信康公後詰、大宮村ニ御陳取、信

より桑畑と申所ニ御陳取、小笠原左衛門、同新九

長、信安ハ同矢部村御陳取、勝頼者長篠より又宮

郎御攻之時、家人八幡之佐野々小太郎、大力之

脇村と云所ニ陳取、小川隔合戦

弓勢ニ而能弓ニ而射伏候時、家康公軍引、形

一 此時大通寺ノ押ニ高坂弾正居テ落ル時、殺生

原橋田山ニ御陳取、小笠原之家老召出味方ニ

橋ニ打死也

罷成、望之通御證文被下、家康公へ随へリ、永

一 長篠ノ菅沼新九郎妻共勝頼召捕、古ムロノ土

録七年四月廿日、異永録四年也、七年ハ累ヲ御

籠ニ入置、籠死、男子壹人出生、母ハ後、家康公へ

攻之時たる也

申被召出、記州菅沼半兵衛是ナリ、

一 清康公、享録二年吉良へ御働、小嶋ノ城主高部

幡豆郡八幡村古老咄

屋ホコノスケ御攻、城主泷ニ飛入水ヲクヅリ

落合より没落ス、此時八面荒川アラ東城ノ持廣降參

有テ、持廣ヲ妹智ニ被成、吉良庄御平属ス、後持

廣ハ廣忠ノ加冠トナリ廣ノ字タマワル、持廣

無子シテ義照讓(ママ)、八面荒川甲斐守義篤(ママ)ハ、家康

公妹智ニ被遊候

一 吉良四籠谷村、牧野一風ハ、家康公御小性ニ而

候へとも、天正十八年関東へ御供不仕病気答

申候、家康公御意、前田一反ニ目ヲクラス哉被

仰、尔今百姓ニ而有リ

一 家康公、伊勢ヨリ御船乗り吉田へ着庭(岸)ノタメ

アイバへ御出馬之時、岡崎田中兵部殿、サクノ

嶋ニ而御馳走可有之處、前夜不思議之夢想あ

りて不審ニ思召、渡部忠右衛門見分參候へハ、

作之嶋ニ而逆心用意見へ、直ニ吉田へ御通被

成候、此時、味濱高須金左衛門御船御馳走申候、

岸田伯耆守壺万石取、道中焼払ハンタメ藤川

ニ家人数多遣ス処、岡村一村催、弓、鉄炮ニ而追

払手柄仕候、徳川家、長録(ママ)・応仁二代三州松平居

城

信光公、岩津城築

西忠公、安城乗取

長親公、岡崎城主齋合養子ス、安城岡崎兩城一味

也

一 廣忠公、天文十八三月鷹狩ノ節、岡崎領分渡利

村ノ一揆生害ナシ奉ル、尾州織田弾正忠武略

渡利村ノ一揆トモニ過分ニ褒美可与由、御印

ヲ持、一揆共、矢作川堤ヲ上リニ急ケル、其節岡

崎大将衆三人、岩津ノ信光明寺ニアリケルガ、

件ノ由告来、其内二人、岡崎指テ急ケル、一人上

将出羽守ハ渡利村ヘ志、岩津大川を堤ヲ下急

ケル、件ノ一揆共ニ行合、御印見て一人モノカ

サスマジキト、三人切伏残ハ遁ル、御印ヲ持光

明寺ニ納、二度覺也、右之内ヌキ書也

一 青崎合戦ニ而、土井庄藏と申者、家康公御馬ノ

跡、尾房ヲ切リスデニ打申サントスル時、我馬タ

ヲレテムナシク引、後、渡部半藏御免被成被召

出、土井庄藏打可參と被仰付、其時赤渋村ニウ

タチ屋ヲ構テ居ルト聞テ、御足輕六人付被遣

候ハ、松葉タイテ宿ニ居ケリ、渡部案内申ニ、誰

と問、答テ半藏也、時能々来ゾ、先上リタマヘト

申時、六人之者ハ表口ノ前ニ忍置候処、庄蔵申

石取

ハ、今日家康ヲ打可申之所、我馬タヲレテ難成

一 吉田小原肥前御攻之時、二連木ノ戸田丹波守

由申、半蔵、就夫其方ヲ打ニ来之間覚悟可仕と

殿内、杉原左衛門、吉田ノ城より母ノ質物アルヲ

申候へハ、心得候、侍ハ相互ニ候間、先ツ上り暖

ヌスミ出し、備前守門番田口傳左衛門返忠シテ

くと可仕と申内ニ、半蔵ヲ取手柱ノ間ニ投入、

二連木ノ退、田口傳左衛門足輕ナレトモ百石被

セド口より立退、外ノ六人ハ裏口ヲ不知シテ終

下也

ニ遁シ、半蔵御前ニ而其段申上候所、居処ヨリ、

此戸田と申ハ、三条家ニ二連木ヘナガサレ、

ノリ沢山落ケルヲ、家康公御尋候へハ、半蔵イ

後所ノ地侍戸田家智とナシテ、後武士トナリ

ツカ足ノ股ヲツカレテ不知、御前ニ出ルツヨ

戸田改、右之小原肥前守ハ駿河方ニ永録ハ

キモノト取沙汰申候、此庄蔵、後西国ニ二千

年ニ城明退



一 荒川殿御屋敷、山田市郎左衛門居申所也、本城ニ

并矢田村ヲ乗立赤羽根ノ高橋出戦、四郎頼住

三ノ丸ノ堀跡見ヘリ、荒川と申ハ、一ニ吉良、二

討死、尔今大目村ニ大将嶋と云有り、又頼住ヲ

ニ荒川、三ニ今川、四ニ一色ト申候、又荒川大夫

神ニ祝、ヨリスミノ宮迎、九月廿十四日祭礼有り

殿と申、千三百石取被申候、屋敷有、荒川ノ家来、

分明不知、此頼住ノ男子出家シテ、法蔵寺中興

中神藤左衛門、鳥居、岡田、加藤此等ハ十三人、今川

と成給ふ、又大目起上圓寺旦那(ママ)、阿弥絶ナ

桶(ママ)バサマノ合戦ニ戦死、今ハ尾州ノ荒川小次

キタモフ事

郎是也

一 八面村ニ石川と言処有り、石川出生、天王神主

一 以前大目起合戦と申ハ、知田郡より渡海ニ而吉

石川と云也、又笠松殿と云有り、野寺本證寺有

良へ押寄、此時戸ヶ崎村、戸ヶ崎四郎頼住迎、荒

り、今又左衛門屋敷是也

川之甥也ニヨリ、荒川と一所ニ大目起ニ出馬、

一 太平記ノ時、荒川矢作合戦之時、荒川ノ一家岩

根ノ城ハ、籠敵ヨリ岩根ヲ放火ス

権現様御代東城御攻ノ陳所也、ツノ平ニモ有(ママ)

一 小豆坂合戦之時、岡崎ノ城、織田引請候由申候、

リ

但此鍋田ハ安城ニ居申候由承候、岡崎ニ有廣

一 寺嶋と申ハ吉良ニ有り、七ヶ寺大寺有之、六ヶ

忠公也

寺絶、今大通寺とテ宗福寺末寺有り、此村より本

一 永録三年五月五日、信長卿、今川方と聞テ実相(ママ)

多豊後守殿内家老伊奈三左衛門出生、但其頃

寺塔ヲ見付、早々放火イタサセ申候、池鯉鮒ニ

豊後殿木田ノ城主也

而見付候、此実相寺、吉良先祖義兼建立之寺也、

一 碧海郡東境村之田中ニ、酒井与左衛門屋敷干

其後鳥居伊賀守遠州より古堂ヲ引建立ス

今有之、但酒井改申事、境之屋敷泉有り、其水甘

一 かす塚ノ取手と申ハ、吉良平原ニ有、古ヘキニ

美にして酒ノ如シ、此時親氏公境ヲ改酒井姓

ンニカスヲクワセテ、ツキ立ル故カス塚と云、

給と伝申候也

一 上野城南西ノ方ニ取手有、南ハ広久手西ノ方

ナクシテアブラナシ、青久テホソクテサルガ

ガケニテ取廻シ攻申時、城中味方より火ヲ城ニ

カケ、タマラレズシテサナゲへ退、大岡彦左衛

門、後サナゲヨリ帰百姓ニ成、上野ニ居

一 押鴨ノ城ヲ中尾ノ城と云、的場有リ、家中ノ弓

五十挺、村ノ弓三十挺、合八十程有リ、松平宮内、

中霧<sup>(ママ)</sup>二代有リ

一 関ヶ原合戦ハ、安芸国毛利元就十八ヶ国ノ主

ニ而、太閤御他界ノ後、治部少、広嶋ノ禪宗坊主

安国寺内談<sup>ニ而</sup>、其頃元就子馬之介と申、家康

公ニ逆心シテ関ヶ原<sup>ニ而</sup>戦、家老吉川、小早川

と云、是ヲ筑前中納言と申、此人主君ニ不足出

来候、子細ハ我家の馬駿ヲ馬之介出頭之人ノ、

片田兵部大夫免、五千騎ノ頭<sup>ニ而</sup>被出候ハ、小

早川陳小屋<sup>(ママ)</sup>ニ而見テ人遣シ改候へハ、何者ゾ

我馬印ハ馬之介より免申と答、是遺恨と成、明ヶ

ル日、陳<sup>(ママ)</sup>の時、小早川南ゴ山と云山<sup>ニ</sup>上リ見物

シテ、剩配軍<sup>(敗カ)</sup>ノ時味方ヲ打取、吉川モウラカへ

リテ有レトモ味方ハ不討、此時馬之介ハ京ニ引

出家ニ成宗随と改、吉川ハ淨見と申、後佗言に  
て毛利ノ家ヲ御立、周防・長門兩國ヲ被下、小早  
川ニハ関ヶ原ニ而直ニサヲ山ノ押ニ被仰付、後  
備前へ国被下、後絶へ申候、吉川ニ、後、家康公ニ  
出頭申候へ共、金計被下、今ハ五万石ニ而有之  
也

一 此ノ毛利ノ甥ニ毛利宰相ニ申付、伊勢国之城攻  
落、関ヶ原出向可申と被申付候時、早々関ヶ原  
ノ配軍ト聞テ、此時、家康公宰相打手ニ、池田三  
左衛門、福嶋左衛門大夫兩人被仰付、勢田橋ニ

待請ケ居タリケルカ、宰相兩人ヲ見テインギ  
ン、互ニジギヲ申、暫咄可申と申内ニ、此宰相大  
力ニ而、兩人之手ヲヒツシトラへ、咄可申ト  
テミジクゴトク、両手ニ兩人ノ手ヲ取咄、若兩  
人ノ家来近付申サントスレ、イヨイヨ堅握り、コ  
ラヘガタキニヨリ、家来聞候近所ヲ引て申付、  
若家来近付候へハ橋より兩人ヲ投落申分別也  
シニヨリ、後サラハサラハ互ニ通可申込、宰相馬ヲ  
ヨセ早々乗、京都へ一文字ニ掛入、此時ニ終一  
戦ナラス、後是も降参申候也、今毛利甲斐守是

之大力ハ觀音ノ申子と、親の大願と申候也

一 平坂之無量寺(ママ)ニ信元ト云人判有、上野誓願寺

ニ親貞ト云判有リ

一 家康公、尾州小牧之合戦之時、秀吉より両使参御

出仕可有義、互ニ御対談之中へ、榊原小兵衛、戸

崎ノ屋敷より黒ノ馬ニ乗、早々乗登城仕、両方ニ

中ニ急度居テ、家康出仕申事、此小兵へ、アタマ

ノ有ルブンニテハ罷成間敷と答、ケシキ悪敷

被申候得者、夫セキタルテイニテ、家康公御セ

カセ、某侍共皆在郷仕ニ付、諸フツガウニ候間、

跡より相談仕、早々出仕可申と御返事被成、使立

申所、小兵衛佐衛門尉申上ルハ、定而敵是へ可

参候間、早々御出向御合戦可有之と申上ルレ

ハ、早々御支度有テ小牧迄出陣御理運御帰陳

ニハ、大濱より岡崎へ御入被為成候、宗澗御咄覚

書

三州古部村天王之札之写

一 応永十七年大旦那浄栄  
源朝臣浄因

時之願主松平修理進長則

一 奉修造三州國古部郷三社靈壇諸旦那氏子等白敬

皆 永正十二年乙亥仲春吉良(辰)

一 弘治二年巳九月七日地頭栗生將監永信 秦梨城主

一 上野土<sup>内藤弥左衛門殿屋敷有リ</sup>下村・粟寺・上村・馬場・押シ鴨・国江・阿陀陀堂

配津・戸ケ利・中嶋・川端・定定・中切  
ナリダ名字ニ羽野勘介 古城有

一 長瀬七村<sup>杉浦</sup>森越・北野<sup>西</sup>・大友<sup>東</sup>・大友・小針・橋目・遍越

一 大樹寺ノ北<sup>ニ</sup>彈正ガ子ト云ハ、岩津<sup>ニ</sup>城ヲ取

立サセマイ迎、西江<sup>(郷)</sup>彈正合戦ノ場、今堀金物出

ル

一 井口村、赤白大納言ト云人ノ城跡有、大樹寺<sup>ニ</sup>

證文も有り

一 花井万之介、天文ノ頃鳴海城主<sup>ニ</sup>而後、家康公

御意違御奉公不仕候

一 藤井甚介長沢村出生、上野殿家来、今松平丹波

守殿内藤井甚介

一 西尾郡鶉殿ヲ永録<sup>(ママ)</sup>五年家康公御攻之時、鶉殿

ノ家人<sup>ニ</sup>仙家道全迎、國中無隠大力ノ弓捕ア

リテ、家康公御陳射ケル矢御ラン候ヘバ仙家

道全ト有リ、此勘六矢先<sup>ニ</sup>而ハ戦ヲ先可引迎

御引被成、後山綱羽栗通、山忍<sup>ニ</sup>両村案内仕、ほ

り切て山<sup>ニ</sup>御陳取、夜詞<sup>(討)</sup>ニ北ノ裏門より御攻落

城之由、古老七兵衛咄<sup>三</sup>而候

野御息也

一 野寺開山、小山弟正清次男新介出家、教圓と承

一 天正元年、岡崎三郎信康公、足助鈴木越後守<sup>酒井</sup>ブ

候

セツノ城主今泉孫右衛門御責取、ブセツニハ

一 永録三年、岡崎城代今川より三浦上野介義保、飯

後川平主計卜京者居ス

尾弥次右衛門顕定二百余人差添、岡崎本丸之

一 天正二年四月、勝頼足助鈴木越後守責、下条ヲ

番代

被指置、此時此時田代ノ松平五左衛門、大浪ノ木<sup>(沼)</sup>

牧野新次郎貞成、後<sup>左馬介</sup>吉田城主小原肥前守

村新九郎、八桑ノ鈴木甚五左衛門、井<sup>酒</sup>浅賀井ノ

鎮実、佐分八幡板倉弾正重貞

柳瀬太郎道悦、家老加能五郎左衛門、阿須利代

一 新城古起有リ、三州守護代藤九郎盛長後西江<sup>(郷)</sup>

城ノ原田岡五郎右衛門等、城明テ退跡火ヲ掛

一 同古起、義氏矢作<sup>(記)</sup>居ル、一色・吉良・今川・細川・上

焼扨、吉田へ出、酒井左衛門尉と戦、此時岡崎三

郎様山中法蔵寺迄出馬寺御陳取、家康公濱松

一 三浦名字相模入道、家老正記判官ノ筋也、三州

より御加勢ニ御出馬、二連木ノ戸田ヲ攻、野田菅

移、三浦弾正保房ト云

沼新八上古サイノ城ヲ攻、新八城ヲ明、西江立

一 保母村主領定則源心入道、松平大炊守攻之取、

退

山陽軍記抜書

一 天正元年勝頼方より鳳来寺ニ奥平出雲置、上総

一 徳川家長録・応仁二代、三州松平居城信光公岩津

様御攻被成候

を取城築、尾州織田弾正大勢を以毎度戦、親忠

一 遠州二役ノ清立寺ニ雲行心靈位、天正七年

公安城ヲ乗捕、岡崎城主齋合弾正左衛門継嗣

九月十五日信康ト一同殺害、是吉良上野殿兄

同長親公養子ニシテ娘と嫁ス、両城信忠公四

十五才初いヲハツ後、善三郎殿と申候、養子分

方敵とせりあい

ニ御座候

竹千代君十二才ノ御時、菖蒲伐見物、御供之者



肩ニ奉乗事

侘言、竹千代人替と有相違也

一 後奈良院、將軍ハ義晴、管領ハ細川高国入道常

一 永録(録)元年、竹千代十七才御年駿河ニ而御年稼、

植ナリ、今川義元三州・遠州・駿州御從、近国ニ威

藏人元康岡崎御帰城、諸人悦

ヲ振ケル、織田弾正モ属、義元公ニ、天文廿三年

一 永録(録)三年ノ事カ  
八年五月、義元駿・遠・三、二万四千ノ勢ニ而

二月、小田原氏康与義元取合、尾州織田弾正忠、

尾州退治セんと発向、元康公廿四才尾州・三州

同三郎五郎父子三州出張安城乗取、吉良働渡

ノ境泉田ニ陳取、桶狭ニ而(討)詞死、相違也

利・下渡利和田本陳小豆坂へ押出ス、義元戦終(マ)

一 元康公大高ノ城より品野村へ懸り猿投山ノ北

ニ西勢負安城へ引、大勢追討ス、東勢ハ藤川ニ

後へ出、梅ヶ坪へ懸り筈利へ打越、大川ヲ下り

引、年号天文二十二年と書タリ、又東勢安城へ

岡崎へ入せ給

明夜中ニ取掛三郎五郎生捕、戸部新左衛門ヲ

一 今川氏直(眞)、廿三年父義元(討)詞死、弔合戦ノ心操も

無之、二浦庄立、花月ノ遊興計也

元長入道海雲ト言、彼ニ四男有リ

一 本多平八郎忠豊後吉左衛門、天文十四年安城

一 天文十九年万松院御逝去之時、光嚴院公御年

繩手<sup>ニ而</sup>打死、兄忠高、平八郎忠勝伯父忠直肥

五才迄守立、公方十四代奉相続様<sup>ニ</sup>三好殿<sup>江</sup>

後守扇子指物相伝奉仕家康公、元龜三年三方

仰あり、三好細川修理大夫家人和泉境<sup>松永彈正</sup>牢人○

ケ原<sup>ニ而</sup>打死

平跡能シテ、阿波ノ三好家へ奉公<sup>ニ</sup>出、後和州

一 清和天王十六代ノ後胤細川形部大輔頼春、源

南都東大寺ノ北山城多門造城を持、三好修理

高氏ヨリ四国之大將軍被居置、帝都兵乱之時

殿、以後左京殿御乳母松永嫁とし、内縁故都ノ

觀応三年閏二月廿日、洛陽四條大宮<sup>ニ而</sup>打死、

支配彈正威ヲ振ケレハ、長臣衆と不和ニナル

其系図続テ天文頃細川讚岐守持隆、同郡勝瑞

一 天正元正月、信玄遠州形部ヲ立本坂越、同十一

<sup>ニ</sup>在城、是阿波ノ屋形と号、其家臣三好筑前守

日<sup>ニ</sup>三州野田城へ取掛責ケル、家康公より信長

へ小栗大六ヲ後詰ノ加勢ヲ頼、二度迄使シケ

レトモ信長不被出、菅沼新八降参、右城ヲ渡、菅沼

ハ奥平美作人質家康ニ有之、菅沼と取替、長篠

ノ馬場ニ而互ニ相渡サル

二月十六日ニ信玄煩悪敷、甲府攻逆敵方より野

田ノ城攻ト鉄砲ニ中ケルト取沙汰ナリ(アタリ)

一 天正元月中旬信玄岩村へ押寄、同三月下旬三州

宝来寺へ着陳ニ而牛久保・長沢迄手ツカイ働(ママ)

アリ、岡崎四里北ニ宮崎ニ取手ヲ構、信州浦野

ニ東美濃降参、三十騎ヲ相添置ル、足助下条者

秋山組ニ而岩村へ在番、其跡へ以上七十六騎

ニ警固ニハ旗本足輕大将、小幡又兵へヲ相添

置ル、其より東三河野田城へ押ヨセ大軍ヲ以

昼夜責ケル、家康公後詰ニ出向在ケレドモ、段々

備後詰ヲ押ケル故、無詮引取ケル、城中妨戦不(ママ)

叶、七十日ニ落城也、信玄甲府ニ引入ケルトテ、信

州子羽根ニテ煩気色悪敷、コマン場ニテ果給

四月十一日ヨリ十二日ノ夜ヲハリ給、同三年

長篠合戦一月前ニ七仏事ノ弔執行、信玄三十

八年、四方取合ニケ条、一ニハ強弱国ノ分限家

山川切取、二三ハ勝負十分・六分・七分、十分危九・

一 天正三ノ秋、家康公御父子御中不和ニナラセ、

十分ハ味方大負、三、年四十ノ内ハ戦勝様ニ四

服部半蔵岡崎ニ仰テ岡崎ノカセ給、年号相違

十以後ハ負ザル様ニ可心得

也

一 天正元六月、家康公長篠へ取詰責、奥平美作父

勝頼も日限相究足助迄来、此義聞付甲州ニ引、

子コモリ防戦堅固ナルカ、扱ヲ入家康公へ味

三郎殿御前信長ノ御娘ニテ、京本多下屋敷ニ

方申ニ付、甲府ニ有人質逆心ナリ逆、妻子ヲハ

而八十二及死去也

リ付ニ掛タリ、其後作州家康公聳仰ナル、此時

一 天正八 六月、家康公高天神へ発向、同廿七日ニ

作平モ御味方ニナル、三郎殿十五才初陳、<sup>(ママ)</sup>足助

城より切出、城代岡部丹波守大久保七郎右衛門、

ブセツノ城甲州方持働ケル城明落退タリ

家人主水打取

一 天正三、参州岡崎ニ而大岡弥四郎逆心ノ事

栗田自焼<sup>而</sup>果タリ、首数六百八十余打取、家康

公次第ニ強ナル

一 天正十二年二月、秀吉十万余ノ勢ヲ押出シ、犬

山ヲ根城ニ構、先手ニハ森庄藏大将ニテ岩崎

山へ一万五千ニテ上り、犬山青塚近辺ニ陳ヲ

取、内府ヨリ家康へ加勢出馬ヲ加ハレケリ、家

康義将ニテ信長と一度之筋目ヲ以、則三月廿

五日、酒井左衛門尉五千騎ニテ先駆、尾州へ押

出サル、勝藏ハ岩崎ニ陳取、又左衛門ハ小牧辺

ニ陳取、同廿八日、家康内府小牧へ出張、卯月九

日、池田勝入父子・森勝藏・三好孫七ヲ大将トシテ

四五万ノ勢ニテ家康留主岡崎之城ヲ乗取、根

ヲ弱スヘキト岩崎ノ城取詰、即時攻落、城代丹

羽次郎三郎腹ヲ切

同四月九日、家康公、小牧之城主ニハ酒井左衛

門尉・石川伯耆守・本多平八郎忠勝ヲ指置、旗本

勢伊井兵部ヲ引小牧ヲ忍出テ、大久保次右衛

門・渡部忠右衛門下弓・鉄砲ヲ入戦、池田勝入打

死、森勝藏・本多八藏討取

一 同十一月、秀吉伊勢へ出馬アリ、家康公桑名へ

出向有テ、町屋川ヲ隔、日々取合、桑名川上カト

リノ面坊士旦那ヲカリ、僅桑名七八町西、観音 一 秀吉蔵領式百万石余、金銀夥敷積聚、同十三年

寺山へ取上り、紙旗林ノ中ヨリ押立秀吉ニ向 二 於聚楽ニ惣門南方ニ金五千枚、銀三万枚台

備ケル、観音山より桑名迄備ツキ山林ノ勢、 二 積賦ル、諸侯大夫二度ニ及へリ

大勢ニ相見へ、敵疑テ不得近、一方ヲ防戦忠勤 一 紀州根来寺開山、覺ハシ緩上人也、天正十三年下春

甚、家康滅之後、褒美ニ寺領ヲ付給、代々御朱印 二 秀吉卒(率)十万騎被発向、専シテラメ不用ニ国司ノ下

ヲ給ル、扱双方勝負ヲ不決、戦(ママ)陳ノ所ニ六条門 知一不顧師匠ノ鑑戒(揺)動惱ニ国民為追伐、二月廿一

跡、公家衆下給扱無事ヲ作、秀吉御妹ヲ内府へ 日ニ乱入、代々貯シ財宝奪取、堂塔一時ニ灰燼

御約束ニテ双方引 ス

一 同十三年酉ノ暮、石川伯耆守、岡崎退、秀吉兼而 一 大永ノ頃ヨリ至天正、国家分離シ

内通ニ而随参、遠州・三河両国聞伝、周章シタリ 一 天正十三年春、尾張内大臣平信雄法名 常真

駿河大納言豊臣秀長秀吉舎弟

近江権中納言豊臣秀次秀吉甥養子

一 北条左京大夫氏政、平相国八男助盛ノ末、伊勢

新九郎ト云し人其元祖也、備中ニ本地三百貫

ノ領主也、立身ハケミ同性富家売、能士卅余ヲ

召連、康正三年、関東へ武者修行ニ出、駿河今川

殿望臣トナリ、長録(ママ)二年豆州葦山ノ城主トナ

リ、小田原乗、北条継、法躰宗雲ト号、長子氏綱・氏

康・氏政・氏直ト連続五代、氏政数国押領シ

一 秀吉ヨリ津田富田両使ヲ以云、其方余多ノ国

ヲ領シ、不知君恩、怠令(急)上京参内可然也、秀吉ハ

大気者、或昔平氏ノ勢十万余、由井神奈(蒲原)ニ陳取

シ、水鳥ノ羽音ニ驚逃上タルハ不知哉、両使ヲ

疎意ニモテナシテ帰シケリ、秀吉聞之、平ノ宗

盛カキセ川ヨリ逃上ル様ニ某ヲ思ケルカ、来

春令(ママ)ニ進舞一事之虚実ヲ見セン物ヲト怒給、

来春関東陳觸天正十七年己丑十月、国々廻文

有之也、秀吉天正十八年三月九日、大坂へ(伺カ)□候

シ、於山里不時ノ御茶ヲ給テ、其上ニ高麗平均

ノ沙汰如何トアリ、家康江御沙汰可然とアレ

ハ、秀吉甚御機嫌<sup>ニ</sup>而、来十五日異国退治之首  
途ノ祝義<sup>(儀)</sup>可給卜、四座ノ能見物ノ上各御晦給<sup>(暇)</sup>  
壹万五千武藏家康公

朝鮮渡海都合三拾万七千九百八十五人、

高十万石ニ大船二艘宛之造用軍役可出、

人足八百軒ニ付十人ツ、米船八十万石ニ大

船二艘中船五艘ツ、

天正廿年春、摂州・泉州・播州浦々可着船者也、

軍役之定、四国九州ハ高壹万石ニ付六百人、中

国記州<sup>(ママ)</sup>辺ハ五百人、五畿内<sup>(ママ)</sup>ハ四百人、江尾濃州

三百五十人、遠三駿豆州三百人、東ハ二百人、若  
州より能州<sup>(ママ)</sup>辺三百人、越後出羽<sup>(ママ)</sup>辺二百人、右之通  
本年極月ニ至テ大坂可上着也

天正十九 三月十五日

文録<sup>(録)</sup>元辰三月朔日、先陳小西摂津守、加藤主計

打ツ、キ、段々押、同廿六日ニ秀吉都ヲ出、卯月

五、六日ニ肥前<sup>(ママ)</sup>名古屋<sup>(ママ)</sup>着陳<sup>(ママ)</sup>

右ノ山陽軍記<sup>(ママ)</sup>連十二卷之中ニ而書拔也

同国津ノ城取ハ富田信濃守

家康様御攻取

一 伊勢松坂ノ城取立、立花飛騨守殿先祖田原藤



太ノ末孫也

一 高天神之小笠原与八郎末孫紀州ニ有、松坂ノ

郡代也

一 牛久保牧野殿家来松葉丹波、加藤与兵衛

一 西江ノ城天正中ニ落城、西江左衛門尉西江(郷)

中山ニ居城ス、西川ニ城ニ御入候共申候

一 江州野須郡木部錦織寺、古ハ慈空大徳ノ開基(ママ)

親鸞上人関東より御帰京時鏡の宿辺よりコ

ノ濱ト云へ出御有テ、坂本へ御船ニメサレソ

レヨリ京へ御移リ在ス也、木部ノ辺ニ川有、御

ミノヲ捨玉フユへニミノ捨川と今ニ云也、慈

観ト云シガ一代アリ、是ハ本願寺ノ存覚ノ末

子也、是ハ山門青蓮院門呂綱巖僧都トテ、広橋

大納言兼綱卿ノ猶子ナリ、其筋目ヲ以テ今ニ

広橋殿ヨリ後住ヲ定メ玉フ也、其後慈達慈賢(ママ)

ノ代ヨリ本願寺へ不通ナリ、是大概也

越前三門徒ノ事

一 此流ニ用ル家ノ七高祖と云アリ

善尊(導)・法然・親鸞・真仏・専海・円善・如道是、中野専照

寺ニ用、此次ニ道證ト云ヲ入横越ノ證誠寺ニ

用、此次ニ如覺ヲ入テ鯖江誠照寺ニ用之、然ハ

竹本四郎左衛門

八祖九祖ニ成申候、清水頭音撰寺ハ京都出雲

奉建立大恩寺仏殿一宇時天文廿二癸丑五月十三日住持

路ニあり来候ヲ、三門徒本寺ニ用可申トテ越

日域諸神

勝蓮社舜譽上人

前へ呼下し、只今ハ四門徒ニ成申、是ハ別也、

当寺鎮守

聖祖久

右之門徒ハ專海ノ弟子圓善と聞覺へ申候

広濟衆尼難

牧野右馬允成守 大工助左衛門重廣 奉加諸衆等

右覺書(ママ)元録二年六月十日

棟梁又七郎小二万人等

越前国本立院殿隱居より書

西江(郷)之覺

状書付参候

三津戸大恩寺之棟札之写

一 東三河西江七村(郷)へ藤九郎秀長ナガサレ来、其

梵天帝釈消除三垢冥大檀那、牧野出羽守保成家督田三郎成 元

岩瀬和泉守善生

由来城二ヶ所西江之内(郷)ニ有之、中山と西川と

二有之、西江<sup>(郷)</sup>左右衛門同内蔵

永録<sup>(ママ)</sup>三年庚申年、小豆坂<sup>(郷)</sup>ニ而西江内蔵助被働、元

龜元年濃州<sup>(江)</sup>姉川ニ而戦功、同天正ニ長篠ニ而

戦功有之、西江<sup>(郷)</sup>之落城ハ天正年中

一 小笠原信濃守長元、東三河大津村<sup>(郷)</sup>ニ而打死、与

八郎事カ

一 東三河ニ山本法心と云あり、中山鹿之助と云

あり

一 稻吉親王ト申、ムカシウツヲ船<sup>(ママ)</sup>ニノリテ三州

幡豆<sup>(ママ)</sup>ニアカリ、キサキ有テ二男有、一人ハ吉良

ノ家ニ有、一人御油ノ菅原氏林ノ家ニ養子ニ

来、親王崩御後、キサキ形ノ原ニ御所アリ、其頃

クリノ坊ト云有、后死去ノ後此跡ヘクリノ坊

入ナリ、今此末、形ノ原東林坊逆山伏<sup>(ママ)</sup>ニ有、此

所ニ伝有リ、板倉孫九郎後伊賀守、又長瀬八幡

神主代々板倉源者<sup>(女番)</sup>ト云、形ノ原林高寺咄覚書

一 板倉四郎左衛門数代小美村領主也、享録<sup>(ママ)</sup>年中

ニ松平大炊介攻、此時板倉家人ト成板倉四郎

左衛門後八右衛門清安共云也、惣領ハ板倉杢下

云、次男長嶋村長圓寺ニテ出家學問アリシカ、

伯父<sup>よめ</sup>姫へ節々用ヲ被申シニ、或時杢之助内室、

尤百石知行取候へ共、其役目ニ入候へハ、身上

不罷成節々御用不罷成とアラケナク申ケレ

ハ、此時ヤシンニ被存、百日ケビヤウヲカマへ、

ゲンゾクシテ駿河ニ下り大町人ヲ頼奉公被

届シニ、家康公御台所衆へ奉公ニ出シ御台所

頭ハ無筆ニテ調法ニヨモイ、御台所ニ而勘定

執筆為致ケリ、或時家康公御台所口ヨリ御

鷹野被為出候時、玄関ヒロシキニテ立テ物ヲ

書居タリ、殿様共不存罷在候へハ、其夜詰ニ御

尋候得ハ、定御慮外哉仕タルト諸人無覺束ヲ

モイシニ、被召出其者勝れ近所ニテ可仕と御

意被遊候、段々立身有テ、後板倉四郎右衛門俊

伊賀守ト申ケリ、此人小僧ノ時ニフシキアリ、

長圓寺へ判占人来、判ヲ見テ此判ハ如何様後

天下ヲトラズトモ天下サハキホトニナル判也ト

申ケリ、少モ不違、所司代ヲメサレシ、其頃占人

満性寺ニ来テ住持寺中五六人ノ判ヲ見て、平

岩七之助殿来テアリシニ此判ヲ見テ手ヲ打

有、此平岩ハ桜井村ノ平岩ト云所より出、主計殿

テ取テイタ、キ、扱モ此判ハタクヒナキ天下

ハ坂戸ノ城ニアリシ末也、安城譜代ト此等也

ニ名ヲ取判トウラナイ、判ノ内ヲ少ナヲシケ

伝云、散位道重ノ末ト云也

ル、其残りノ判ハ占人申通少も其違無之、七之

一 大沢大沢ハ栲原龍溪院ニ有大般若經書本末書ノ写

助どのハ 家康公ニ被召出、岡崎御城主ノ時

三河国設楽郡富永保今泉慶芳并長次郎寄進

分ニテワツカノ身躰ニテアリシ、後平岩主計

干肯応永十二丙戌年霜月十四日於長善禪寺書写畢

ト申、甲州ニテ四万石後尾州清須ニテ九万石、

一 同壹卷奥書 天文十二年霜月十五日寄進

後尾州大納言様ノ養父ニナラセタモフト承、

三河国富永今泉慶芳同長次郎寄附

此時桑子妙源寺へ百石之寄進状、満性寺へハ

大般若波羅密多經第四百九十四

シユンキヤウ花鳥ノ絵ニ幅ノ唐絵三幅寄進

一 同壹卷奥書

三河国加茂郡足助庄奥下山郡

右<sup>ニ</sup>写也、末<sup>ニ</sup>有之八七年

右神宮大般若経也

応<sup>イキ</sup>永廿七年十一月八日松平徳阿弥

紀州創業記有之正岡村と云但行名ノ古城傳兵衛居城也廣忠公天文十五  
年十月今橋へ出陳有(云々)

一 同卷奥書

三州額田郡西熊村天満宮御経

吉田城主牧野古柏、永正三年十一月十五日と  
申候、氏親三河出馬吉田攻落、古柏切抜跡城へ

永享十二年十一月吉日

田原弾正二男戸田金七郎在城、其後古柏一男

銘<sup>ニ</sup>

傳蔵三成吉田へ本意シ数ケ年、其後松平<sup>ニ</sup>次郎

一 三州幡豆郡吉良庄西尾御劍鰐口酒井雅樂助寄進

三郎清康公吉田<sup>ニ</sup>相働、此時益岡<sup>ニ</sup>在城牧野

永禄<sup>七</sup>三年八月十五日岡崎菅生大工宗次

傳兵衛、清康<sup>江</sup>一味シ傳蔵兄弟討死、享禄二年

五月廿八日落也、自是吉田ニ牧野傳兵衛在城、

ト合戦、此時渡部八郎右衛門、同八左衛門先掛

其後田原ヨリ計略ヲ以テ傳兵衛家中戸田新

相引也

次同宗兵衛田原ニ属シ、此時傳兵衛ハ退城也、

一 三州日近名之内村城主奥平監物貞勝、同久兵

自是吉田城天文十五年迄戸田金七在城、此年

衛貞光

又自駿河吉田城ヲ攻落、永禄八年迄持之、此節

一 八名郡宇利合戦城主熊谷備中守信重、松平二

廣忠公今橋へ駿河衆一所ニ御出陣、(マ)永禄八年

郎三郎清康公享禄二年之事

マテハ吉田城主小原備前守

一 菅沼新八郎定則、法名不春、安城長親公ニ世悴

家康公御攻落、自是酒井左衛門尉忠次在城ニ

之時御奉公、後三州設楽野田ノ富永断絶ニ付

代

養子と也、菅沼織部少号因慈、宇利合戦享禄二

一 天文五年九月六日廣忠公三州上野ニテ尾州

年ニ先陳ス(マ)

一 弘治二年奥平美作守、今川義元へ返逆ニ付、義

元より奥平被攻、通山(ヤマ)ノ取手攻ケレハ織部少定

村矢ニ当り兄弟三人打死、此時長沢松平上野

介、二連木ノ戸田丹波守、吉田伊奈ノ諸卒二陣

ニス、ミ奥平攻ケレハ、奥平兵衛追打ニシ奥

平終ニ義元ニ降参

一 永祿四年野田菅沼新八定光岡崎ニ属ス、吉田

在城大原肥前守方へ人質ニヲシイトテ十一才

也、コロサントス、野田ニツクル者アリテ野田

ニ忍遁リヲシイハ十一才ニシテシス、今泉四

郎兵衛祖母也、此時西江竹谷(郷)ノ玄番質人ヲ捨テ

家康公ニ属シ、其外十三人吉田川端ニクミシ

指上ケ、其内野田ノヲ子ヲ一人サシコロシケ

リ、其後吉田・伊奈・牛久保・二連木ヲ催野田ヲ攻

扱ニ成、新八西江(郷)へ退、ヨク年遠州見附へ三州

衆攻押、其隙ニ新八人数ヲ催野田ヲ攻帰城後

居城也、後野田返地シ西江(郷)ヲ駿河より攻落ス

一 永祿七年十一月十一日、戸田殿主頭吉田ノ城

ニ而打死

一 東門跡之家老栗津右近法橋下妻治部卿栗津



庄兵衛松尾左近、八木采女七里道専石井隼人

横田内記

一 田原十田弾正政光と寺部鈴木日向守重則ト

不和成テ、今川修理大夫氏親分国軍勢催永正

三年八月九日三州山中大瀧ニ而合戦、鈴木日

向守方ニハ奥平伯耆守大河内ト一味ス

伝ニ大瀧ハ山中ノ内山綱ニ有リ、山中ノ西

ニ血川ト云アリ、又駿河衆ノ身ヲアライタ

ル川トテ山中ノ東身アライ川清水アライ

ト云有之、山中七名あり

阿波国より東三河牧野ニ来于今牧野傳屋しき有り

一 牧野左右衛門入道古白実名成時田内左右衛門十余代

の後胤牧野田蔵左右衛門成富か子也、武道ノ奥

義、宗祇宗長ニキハメ朋友と成、

氏親ト永正三年十一月三日牧野出羽守同田

兵衛以下降参シ、城明ケ渡す、今橋ノ城(戸カ)十田金

七郎ニ給る、(戸カ)十田次男

一 此古白か子五才ニシテ桶ニ入、城より落下地出

尾州ニ引後牧野四郎左衛門

田蔵共三州譜代親類催二度今橋帰城す

一 山中法蔵寺江西より入ハ右之山ノ入ヲ平五沢

といふ伝云、弘治元年ニ平五郎屋敷働攻天野

家康公京都ニ而信長御他界之節・境ヨリ三州

小次郎先掛セシム、平五郎不叶立出自害ス、此

へ御移之時、御忠節御供被申同家より長嶋仁左

所ヲ尔今ジガイ坂ト云

衛門御供申候、此吉川末御旗本ニ有之

一 廣忠公御代天文四年十二月廿七日、伊田合戦

一 戸田三郎右衛門忠次同庄左衛門子ニ而則戸田弾

ニ林藤五郎阿日大藏算叟書重忠、上村新六大

正甥也 家康公御継母トハ従弟ナリ、天文十

原左近衛門、嶋田弾正同出雲守、大久保新八忠

六年ニ竹千代君ヲ尾州へ舩ニテ送申、調略ニ

俊後五郎右衛門初として、百五十余騎田中駒ヲ

テ後田原立退アイバ吉田ニアリ、一揆ノ時永

乗居へ、井田細井喜八郎勝重等始トメニ二百五

録<sup>(ママ)</sup>六年ニ佐々木村上宮寺籠り、家康公返忠シ

人味方打死

テ岡崎ニ參、酒井左衛門忠次ヲ戸田忠次ニ相添、

一 大和国へタリノ城主吉川主馬助息喜太夫、

上宮寺籠ル一揆酒井軍勢戸田案内シテ曲輪

ヲ放火シテ岡崎帰ル、国光ノ脇差戸田ニ被下  
候、一戸田田原ヲ除キメ屋水野氏仕テ後一揆

一 小原城主鈴木越中守子孫、足助町鱸傳兵衛御  
朱印所持候由

一同ス

一 九久平村之磯谷仁右衛門出来助筋也、岩倉ノ戸

一 戸田金左衛門赤岩村より被召出候、右之三郎右衛門

田代々家老と申候

ハ大津大崎ニ罷在候

一 本宮山ノ下ニサカラ川ト云アリ、此所ニテ

一 永録四年、西郡ヨリ東城西尾へ切テ出候、敵ヲ

家康公ト甲州勢ト合戦有り

小野万五郎萩村出向申時、日置源太左衛門時正

一 東三河シノダト八幡ノ間アフゾリト云所ニ

ト云者出合戦、万五郎時正ヲ打取、時正カ家人

テ家康公御戦場之所

上村三平ト云者、万五郎ヲ打取、此所ヲ萩村と

一 同一ノ宮ノ近所、大川ノ欠ニヲイヨミ甲州衆

尔今万五郎山とて墓アリ

多打死

一 同コンノサイガガケニテ甲州衆多打死所

領也

一 家康公今切辺へ御出陳、(陣)山中ノ出屋カ所ニ一

掛川ハ城立覺次第

日半御忍御座候、今其者白須賀ニ而五十石被

一 永正十年八月廿日御城立、城主朝比那備中守

下居申候

家老朝比名左馬助

一 長篠城主菅沼新九郎、甲州ニ生捕行コムロノ

一 元龜元年石川日向守二代二十壹年

土龍ニテ死去、母ニ歳ノ男子イダキ 家康様

一 天正十九年山内対馬守六万石

江信州ニ而則被召抱、今紀州菅沼半兵衛家は

一 慶長六年松平隱岐守三万石

也

一 同十二年松平河内守三万石

一 三州日近城奥平下総弟監物ト云者開、往古高

一 元和元年安藤帶刀二万石

越後守師泰知行、永仁四年菅生物持寺深恩院

一 元和五年松平対馬守

一 同九年御蔵入

一 寛永元年朝倉筑後守二万六千石

已上

一 觀応二ハ執事高武蔵守師直、越後守師泰、高倉

左兵衛ノ督入道慧源右兵衛直冬、石堂形部卿

頼房、桃井播磨守直常

文和ニハ山名伊豆守時氏、同右衛門佐師氏、延

文ニハ仁木越後守義長、畠山阿波入道道誓、康

安ニハ細川相模守清氏、貞治ニ斯波修理大夫

入道道朝ニ至マテ更ニミダレル 素世コト二十四年応

安改元ノ比鹿苑院大相国治世斯テ四十四年、

尊氏ヨリ義輝ニ至迄連続トベ十三世二百三

十有余載威徳モ失せ、忠貞ノ武臣モナク成、天

下ノ乱止時ナシ、就中明応ニ細川改元、永正ニ

三好長輝コトキ者出来テヨリ君臣義スタレ、

足利氏真(衰)ノ時、東国ニ織田信長、北条氏康、武田

晴信、北陸ニ長尾景虎、中国大内義隆、尼子晴久、

毛利元就、九洲ニ大友義鎮、嶋津義久、前後ニ属

起シ

一 中嶋 崇福寺ノ住、東岸和尚ハ 家康公帰依僧ニ而

吉良赤羽根ノ城主高橋氏ノ子ニ而常ニ高橋坊 一 三十家

主と御意被成候

北畠伊勢 今川駿河 武田甲斐 小笠原

寺院ノ中ニテリサンゴウノ法門御きゝ被

信濃 村上信乃 上杉上野 宇都宮下野

遊候、御キゲンニアツカル

里見安房 佐竹常陸 大碓奥州 葦名奥

一 上杉上州平井城処リ、十六ヶ国後終北條氏ニ

州 伊達奥州 南部奥州 最上出羽 秋

被滅

田出羽 佐々木近江 土岐美乃 武田若

一 尼子雲洲富田城処リ、八洲後毛利氏被滅

狭 畠山能登 細川摂津 赤松播磨 山

一 大内防州山口ノ城処リ、八洲終毛利氏帰ス

名但馬 一色丹波 大内周防 細川阿波

一 大友豊州府内城処リ、六洲嶋津氏帰し為秀吉

大友豊後 菊池肥後 嶋津薩摩 龍造寺

公被放流

肥前

一新国十家

朝倉越前 三好阿波 別府土佐 毛利安

藝 浦上備前 尼子出雲 長尾越後 斎

藤美濃 織田尾州 北條相州

一 長尾景虎 姓八平、法名謙信三洲并出羽上野(ママ)

飛騨越中半

一 織田信長 姓平上総介右大臣二十四余州平

已上新国

一 三州保久村之城主日ノ下クサカベ一德斎ト云 家康

戦国五雄

公保久八幡ニ出陳戦、一徳城開其末後山下庄

一 毛利元就 姓八大江大膳大夫十洲

左衛門迎本多豊後守殿ニ、三百石取、同生田村西

一 北條氏康 姓八平左京大夫七ヶ国

福寺此末葉と承候

一 武田晴信 姓八源大膳大夫信乃守(ママ)、法名信玄

鐘ノ銘ニ福嶋教興ト云名有、神主竹尾八郎右衛門

四洲并飛越濃遠参半

ト有之由、舞木村宮ニ有之、和田七村トハ宮地・

井内・野畑・下和田・牧御堂是ヲ云ナリ

米子かよひたや よはれたや

一 天田之堤ニ隱岐堤ト云有、是ハ原隱岐守ト云

但義氏ノ事カ

者岡崎有之時被致候由申候、分明不知

一 二品親王、三洲吉良西ノ町流レ、聖一國師、東福

一 大平村圓成寺本尊裏書、明応四年明秀と有之

寺住ニテ御見廻被參、則親王留置寺ヲ立掛持

一 牧野撰津守カスヤ備前、判名桜井寺有之由分

ニシタマイ今ノ実相寺親王ノ御座候処、尔今

明ニ知不申候

御所屋敷迎アリ、其頃付人荒川殿中神氏来ル

一 小倉酒造丞迎御普代アリ、家康公ヨリ尾州へ

ト伝へし

御付齋田金兵衛組ニアリ、家康公へ御目見

矢菌村初山平太夫分見書

へ出ル時ハ鑓ヲ抜てもたせ出ル者也

一 西江弾正左衛門・同兵庫之助兩人矢作合戦以後

よへハよふ よはねハよばぬ 世の中に

兩人勢州江落其已後三州帰国



一 伊勢新九郎長氏、イセ平氏、今川駿河守氏輝ニ

松をほりよせ植て、此本ニ而日参ありて鳳来

仕へ高国寺之城主、後葦山之城主トナル、明応

寺を御拝し給ふ、松(たか)反る上鳳来寺松といふ也

三年相州ヲ乗取、威八洲(ママ)ニ及、後北條是ナリ、五

一 吉良平原村より長谷名字出候

代目絶ル

一 吉田近所ニカタ坂イリヤマセスクモウツ山

一 畔柳清左衛門後受覚父孫左衛門ハ、味方原合戦ニ

ハイ原イノヤ

打死、其末連尺町清左衛門是ナリ

一 郭回此名字不知

永録六年一揆(ママ)ニ勝慢寺籠んで有之孫左衛門、大

一 京極ハ江州佐々木ノ惣領、同朽木も佐々木家

久保淨玄智也

紋イノメ、江州ニ佐木ノ宮と云あり、其近所ニ

一 真福寺寺内ニ鳳来寺松と云あり、此子細 家

ヲサダト云村に今京極殿知行代々也

康公より鳳来寺薬師立願ありて、松平より此

一 吉良赤羽根ノ城主高橋与助と申侍、家康公

へ逆心ありて、家康公サクノ嶋へ御出候処

是改松平と三本扇紋也、右衛門殿始而関東二而

ヲ奉害ルタクミ致(企) 家康公へツゲル者有リテ

二百、万田といふ所を取、家康公マシダト口

被聞召、赤羽根ノ高橋被召寄、ハリ付ニ被仰

ウゾヨト御意アリ、其後三州寺津・コミ(巨海)・矢田三

付、其弟禅宗坊主ニテヒマカニアリテ老才ノ

ケ村取ハジメ也

男子ダキテ、禅宗坊主ノ方へニゲ命ヲタスカ

一 福王名字投町ニ有之、後信州ニ来ル

リ、其男子ニ又二男アリ、其未有之と村ノ古老

一 大給源次郎佐官真乘

咄覚書

一 酒雅樂殿天文四年死去、息元和九年

一 長沢六代目上野弟甚右衛門、同念誓、此甚右衛門殿

一 吉良小山田村古城ニ松井次郎兵衛と申人也

養子被致候、家康公より始而二百石被下、後大

小山田ノ古老咄、松平周防守殿先祖ナリ

名ニ被成候而、伊豆守殿養子、右八大河内氏自

一 天文十七年三月、小豆坂合戦尾州まけ軍ニ成

シテ、松平藏人忠厚無念ニおもひ山崎之城よ

味方押寄藏人殿首ヲ取廣忠公へゲンザンニ

り人数五百人ニ而岡崎ヲせめんとて川越て

入、中ニモ竹尾藤市郎無比類働有之、是ヲ明大

和田ニ上り羽根山より明大寺村出候処、廣忠公

寺合戦と云、此藏人、前年天文十六年九月廿八

より酒井雅樂介・石川安芸守両将ニ出向申処ヲ

日渡利河原ノ合戦ニ而両方相引シ終ニ打死

人数式ニ分ケ、半分ハ上明大寺、半分ハ下明大

有之、古老咄覚書記之、大橋源五左衛門藏人半弓

寺ニ林藪陰ニ隠居テ、東ノ方より来処じゃかう

ニ而川端にて射留、又山嶋孫左衛門打取トモ

塚より矢ヲ射カケ申所、藏人押抜明大寺町へ

三河国十六家

放火シテ耳取ノ坂ニ馬引へてありしを、上下

一吉良 一松平 一設楽 一西江(郷)

より各く七十人余にて矢射掛戦処、藏人殿

一菅沼野田一熊谷備中守宇利一三宅 一牧野牛久保

矢ニ射落され、人数四度路に成敗北ス、此時ニ

一戸田 一高山 一奥平作本一鈴木小原

一小笠原幡豆 一水野 一中將 一星野

上村氏

永録(マ)十二年五月六日

上村新六、同甚平、同帶刀、同新六郎、同飛

驍守

甲乱記作者也

一 御宿監物といふハ駿州興国寺之城主、先祖大

百姓ニ而頼朝藤野狩之時、御宿ニ被成自是諸(マ)

人御宿ノといふ、其後終ニ興国寺之城主也、今

川家之時天文十六年、田原江先陳彼城落城九(マ)

月五日、同十八年十月御宿監物三州安城へ押

寄対城主織田三郎生捕、其末大阪陳之時分御(戦カ)

宿越前迎越前一国之約束ニ而大坂ニ籠城と(マ)

いふ也

異ニ此節有書記申候

上野村近藤又市殿より西七月廿七日来覚書

一 上野城戸田小法師御取立此所ニ寺あり、永と

く寺申坊主と山ニ而替地被下出也、跡城被成(之)

御開候、其寺山屋敷ニ而焼申付皆人焼寺とい

ふ、其後平地ニ引寺を立、今之行福寺是也、其村

山ニます塚と云有之、戸田小法師息孫次郎様

也、日待之塚ニ而経塚共云也

一 同上野村之内、近藤傳次郎屋敷四十間只今三

屋敷ニ成申候、横十六間此屋敷ニ于今近藤又

市と云有之

傳次郎、彦大夫、金右エ門、徳左衛門、又市と申候

同村古城南ニ酒井作右衛門屋敷、同安達右馬之

助屋敷在之

一 清康公岡崎并上野之申傳ニハ、上野廣久寺ニ

而阿部弥七と申者打申と申候、是尤／＼

西尾丹後守殿内

五百石取小浦庄右衛門後シメト云

一 三州桜井村ノ領主小浦喜平次と申候処ニ長

親公へ此地ヲ入献御家人と成、今時積り老万

六千石ホトノ処ニツ分テ、八千石余松平内膳

殿譲り残ハ嫡子小浦喜右衛門正高へ譲り申候

夫故喜右衛門正高松平監物家次時迄彼幕下屬

ス

酒井将監殿内、鳥山孫左衛門ト云者小浦妹婿

ニテ此小浦、西尾丹後守殿内五百石取小浦

小浦紋所三ツ頭左巴幕紋丸之内白鳩番  
山本或説三文字添劔酸草

シメト云

終所矢筈

一 桜井造創之比、天野次太夫ト云百姓余程ノ地

ヲ喜平次<sup>エ</sup>奉テ臣トナル、其名初ハ天野作内

ト云後作内相改次大夫と可申由申伝へ候、則

小浦喜右衛門正高、桜井監物家次<sup>ニ</sup>属ス、後山本

新五左衛門と改遠州郡代、関ヶ原御陳之時御使

番也、扱桜井<sup>ニ</sup>而小浦近隣川嶋村之領主太田

氏セメ戦、多勢打取川嶋ヲ切取、川嶋村惣兵へ

屋しき是也、今に其骨有之由也

大樹寺九代鎮如上人廣忠公御灯香  
弘治二正月五日  
大樹寺<sup>ニ</sup>而写

俗名覚

大樹寺<sup>ニ</sup>テ写

同十代大樹寺御過去帳写  
永録時代  
岡崎侍之名也  
隣菅上人松應寺開山元龜三年七月八日深津孫十

高橋六郎右衛門

高橋六郎右衛門

同三郎次

一峯全休桜井小浦喜右衛門 廿六日

小川助三郎

天文十八年野田神主事

永録十二年十二月掛川<sup>ニ</sup>而打死

月窓浄閑小浦喜右衛門 十八日桜井城主

渡津助八郎

林藤七郎

道帰安城對馬守 延徳二年八月二日

酒井七郎兵衛

平沢九兵衛

法應院松平甚太郎 天文九年十一月一日

吉良

東城有之

月湖寿桂松平甚太郎 十月二日

服部久大夫

松平弥七郎

登悟道雲石川修理之助康成 小川城主

道雲 元キ三年六月五日平岩善十

淨譽道存居士 永録八年九月六日酒井将監忠賀上野城主

一溪道看 松平左馬助長家 安城城主天文九年六月六日切腹  
林藤蔵同日死去

月栖浄心 近藤与市 天文九年六月六日安城ニテ打死  
上野村屋しき有

天文八年六月七日 作岡左馬之介死去 永正三年十月十八日

清岳道運 酒井十平殿伊田城主、左右衛門尉先祖也

千峯栄公、藤井サマノスケ さまのすけ  
家康様御預ケ十平ト云  
其末左右衛門共申可也

花山正栄 形原将監貞光 天文九年正月十五日守次男 彈正左衛  
岡崎城主紀伊 門二八兄

酒井二郎右衛門 天文七年十二月十五日

山岡備前  
コセマ  
松平傳五郎

本多肥後守 酉ノ六月十九日、藪平八、茂八左衛門

雲林道晴 阿部与五左衛門午ノ正月十五日明眼寺判有之

栄樹道全 石川五大夫 永録七年二月廿日死

香樹道春 石川右門八郎忠秀 月廿日大友村地主  
永禄六年極桜井村古城主

道隣 桜井城主松平与市家次 天文十年六月廿四日

松平中書 天文十六年七月廿四日 大樹寺寄進状  
ヤブタ八郎左衛門ト云アリ

縁宝道因、大加七郎衛門 又女筆ニ

志んさうより  
文ちやあ  
あかばねとの

宝時清林、井出五郎右衛門 阿野村住  
此田筆大泉寺ニアリ

清康公御息女

月空道觀 石川傳五郎 善左衛門子

庄兵衛

玉林宗光 細井彦三郎

一 同村權現宮太猷院殿御朱印五拾石同藥師領

光誓 (長) 文錄二年十二月十二日 石川四郎兵衛 明眼寺旦那

一 酒井元祖廣親法名源受院殿安譽善甫

祐念居士 辰ノ六月廿一日 石川左源太 明眼寺旦那

(長) 長録三年八月十二日大樹寺より酒井參候書附

祐專居士 右親父也 天文五年丑五月廿五日 石川左源太 同寺旦那

有り

大樹寺九代 呈蓮社魯耕鎮譽上人 イノヌマヨリ入院 弘治二年辰正月五日

一 西江左右衛門吉貞妻酒井左右衛門尉忠次妹智小川 (郷)

一 三州桜井村元地頭小浦喜平次後喜右衛門、草切

備前カ 豊前渡利ノ久兵衛 山岡半左衛門、清兼半左衛門、三

ノ百姓天野作内卜云、其後松平平玄蕃介 親忠公 御息也

代有り

城取立、其次 ニ 松平内膳信定 長親公 御息 同監物家

一 酒井左衛門忠次母ハ水野氏

次左馬亮迄七代、其次 ニ 榎津清右衛門、其後三浦

一 藤井左馬允、同隼人、同甚九郎、同甚介 大濱居ス 長沢住 松平丹波字弘富



一 本證寺如来絵伝裏書ニ天文十二年石川右近

同修理進安城為正順菩薩願主正宗ト有之、元録(ママ)

七年二月十一日万徳寺ニ此跡ノ文字消テ不分

一 貞氏義家讚岐入道殿と申、其子ニ子大御所尊氏之

事、錦小路殿ハ直義之事

一 故殿故入道トモ云、今川了俊父範國法名心省

一 鎌倉管領氏満謀叛、康暦元年將軍義満

宇頭村ニ昔ホウ阿ミ長者ト云長者ありて(異

今村子ツカイ長者云アリ、此長者今村ノニ

ラン立ル)桜井の塔、今村之塔ヲ立アマリエイ

田ヲ林ニ日クレ申込アヲキ候ヘハアカリ申也  
ゾワシ金ノ団ニテ日ヲアヲギ候得ハ日輪も

上リタマイシ此時家タヘ、于今屋敷有之、其後

本多金右衛門、山田八蔵と云兩人、家康様御代迄

領知申候、其頃宇頭村ニ渥見弥二郎と云奉公

人アリテ、カイ申犬ノ事ニテ意趣トナリ、弥三

郎方ヘ八蔵ヲよひよせ、ダシヌキニ打ケリ、此

時柿崎村中尾市左衛門と云者、比頃之カタキヲ

直ニ打取、近年迄山田八蔵墓松あり

一 柿崎西山ニ千人塚戰場、于今骨あり

元三洲細川村山口玄番弟孫人赤坂ニ移ル山口半左エ門ト云有太高山口清左衛門

一 山口左馬助一家永録二年ニ三洲赤坂ニ移紋(ママ)

ケンビシナテシコと承候也

一 寶徳元年十二月細川讃岐守持常安芸国三河

一 中根弥太郎中山土村ニ住、中根喜藏兄弟大島

国両国ノ守護同讃岐守成之以甥成之嗣トス、

村中根七郎右衛門末カ

今三州額田郡細川村ニ讃岐山ト云有之、此所

一 一色七郎ト云三条家田原江流人、此所ヲ領ス

ニ居住也

七郎無レ子シテ戸田孫四郎ニ相譲リ、因茲戸田

松平和泉守信光此御平属御働ノ事、親元日記

全久為七郎ノ田原大久後ニ文明十四年ニ為

ニ見へたり

菩提長高寺と云禅寺ヲ立、于今戸田全久ノ書物

一 田原大久後村長興寺禅宗文明十四年立、其後

彼ノ寺ニ納リ候

一 一色殿タメシ戸田全久院建立也、則全久院ハ

一 松平大炊介正則始テ保母村ヲ切取其子殿主

松平丹波守先祖也

深興津ノ城居ス

一 一色七郎三條末流田原流人、其後上野城主戸

戸田孫四郎田原ヲ譲り、于今長興寺ニ戸田全

類聚

久ノ其趣ノ自筆ノ状アリ

一 狩人の矢矧に今宵やとりなバあすや渡らん豊川の水

キスカサ 慈意

年号月日 不知

一 高岳賢勝居士、俗名酒井小五郎殿、大樹寺ニも有之

名寄

一 六名六人衆 成瀬藤蔵、筒井、大屋、鳥居、

一 思すま矢矧の里のかくれ妻せなかもをはぬ人などかめそ 長明

蜂屋、寛

一 浮世にハ又ひかれして梓弓やはきの橋に書附て見ん 元政上人

深草

名寄 矢矧の里

元和ノ頃上方より来住

一 梓弓矢はきの里乃かば桜花にのミある我心かな 為家

迄五代元録七 五月覚

夫木

此屋敷ハ昔聖眼寺といふ浄土宗寺有り、寺絶

一 軍見て矢はき乃浦のあれハこそ宿をたてつゝ人ハあるらめ

て、廣忠公之御時分深興津村城主松平主殿

フコラ

下屋敷に成、其頃廣忠公御生害ニ付、岡崎サ

ハギケル、主殿殿鷹野ノ場ニテ聞早々カケ付、

吹屋ノ瀬ヲ渡り、此屋しきへノリコミ候得ハ

岡崎中の者扱は主殿御越候へハ、心安と息を

つき悦ヒケリ、鷹野場ニテ聞

一 松平家紋代々立葵、清康公御代天文四年迄立

葵ニ而随念寺之清康公ノ御影ノ御紋立アヲ

イナリ、家康公御代岩堀ニめいぶつノ菱有テ

毎年上ル、又岩堀にメズラシキアヲイ有テ丸

ノ鉢ニアヲイノ葉ヲ三葉敷、菱ヲスエテ指上

申ヲ御覽被遊、自今以後、立葵ヲヤメテ丸ノ内

ニ三葉ツルアヲイニセントノ御意ニテ替ト

本多茂兵衛と申者、八十二而相果、慥ニ伝と申

咄ケリ

一 文明之頃カ、信光公酒井ヲ召れ、鳴野へ御鷹野

被為成、御帰りニ藤上ケ清水ニ而御かほ御手

をあらひ、御兩人足を御ひやし清けつなる清

水と御ほめ、自今以後、境を酒井ニ改、則紋ニ井

桁ヲツケラレヨト御意ニテ、此時酒井ニ改テ

酒井彦助と申者慥ニ申伝へし也

一 家康公長篠へ御出陳之時御油御通候時、鍬ヲ

クラニ替タヘル

かつぎて、百姓壺人通けるを田中五郎右衛門被

一 小原鈴木越中守関東苻川城ニ而絶ル、但一字

仰付、何方之者被尋候へハ某ハ国母の者と答

鱸也、紋丸之内ニツトモへ

へし、何方へ参と御尋候へハ城取へ参ルと申

一 足助鈴木喜三郎内方右細川佐官真乗ノ後家

上ル、御機嫌ニ而平松と御名字被下屋敷迄拝

仍、和泉守殿ニはマヽ父也、喜三郎女子美濃ノ

領仕候処、後御油なわてウタレシトカタケリ

ヲリニ四千石取ニ和田介右衛門内義也、其跡絶

分明不知

三男壺人、松平丹波守殿和田彦平迎知行取テ

一 寺部ノ鈴木日向守永禄八年ニ家康公被攻城

有ハ、此後家も喜三郎も後岩室ニ来、和泉守介

明ケヤナミニカクレイテ、後駿河へ落ル

抱ニテ死去也

一 足助鈴木喜三郎後伊賀守、天正十八年関東サ

一 足助喜三郎父越後守御預、足助普光寺ト云禅

宗寺ニ有之

一 井田村 高六百五十七石三斗五合

一 天正二年四月足助焼失、跡ニ甲州より下条伊豆

一 吉良酒井村高弐百八十九石弐斗九升、此村手

ニ置也

嶋氏開発東城ノ尾嶋修理亮一家信長仕ル

一 家康公御代長井村より出候長井惣太郎息、柴田

一 上野上村高五百六十六石酒井将監古城有り

氏養子柴田左近卜云、家康公御小性寛永六年

一 境村西境高四百九十七石四斗八合、東境六百

死去法蔵寺ニ石塔有り、此末本多下総守殿柴

八十五石五斗壹升五合目

田二郎左衛門迎有之、此末也

一 井田村酒井十平と申御座候、是ハ能見松平二

一 大河原源五左衛門、同源七左衛門、三木城主松平蔵

郎右衛門三男ニ而酒井忠次甥家康様御意ニ

人信厚家老、此末御簀本ニ大河原十兵衛迎有

背、忠次家中へ御預ケ子孫于今家中ニ有之、松

之

平改酒井十平と申候由

- 一 松平内膳殿上野御在城之時分、行福寺建立ノ
- 一 大須賀五郎左衛門
- 川村自斎後笹本権兵衛  
大道寺源六
- 義二
- 一 植村出羽守
- 後領岸九左衛門、青山源太兵衛
- 権現様岡崎御在城、天正時代迄屋敷付 水野
- 一 本多中務
- 後鈴木惣兵へ屋敷
- 監物御代御改之付
- 一 服部石見守殿
- 松本頼母
- 一 酒井雅樂助殿御屋敷 二本松右京異酒井左右衛門尉と申候
- 一 平岩主斗殿
- 西二ノ丸後志か太郎兵衛屋敷
- 一 石川伯耆守殿御屋敷 松之尾外記殿御屋敷
- 一 酒井備後守
- 秋本九兵衛
- 一 酒井左右衛門尉忠次 野田二郎右衛門山中多兵衛屋敷
- 一 宮内丞法玄
- 下御厩
- 一 鳥居彦右衛門 歩侍衆居屋敷
- 一 安藤次右衛門
- 拜郷源(ママ)次衛門
- 一 石川安芸守 馬出堀道ニ罷成候
- 一 水野彦九郎
- 川役七郎左衛門屋敷
- 高井弥次右衛門くんない
- 一 山岡半五郎
- 水野三郎右衛門屋敷

- 一 別當与惣兵へ 東城仁右衛門 一 今村彦兵衛 豊嶋七右衛門同彦七
- 一 渡部圖書 沢弥五左衛門屋敷後芝長屋 一 三田彦六 三浦市郎兵へ右八落次右衛門
- 一 黒田半右衛門 津田権右衛門 一 榊原七郎右衛門 連尺町<sub>ニ</sub>成申し
- 〇 久世三四郎 同所 一 天野又左衛門 同町
- 〇 杉田新兵衛 中世古左助 一 大久保七郎右衛門 酒井喜兵へ、中世古左助西か
- 一 松平紀伊守 石原十郎左衛門 一 拾京屋敷 中村源太左衛門
- 一 渥美太郎兵衛 上留り堂之所 一 内藤次左衛門 吉田左次兵へ
- 一 内藤四郎左衛門 奥津伝左衛門本屋敷後連尺新町<sub>ニ</sub>成 一 松平和泉守<sub>大岡紋四郎  
小林七左衛門</sub> 能見庄屋ノ屋敷  
同観音寺東
- 一 夏目長右衛門 水野又右衛門後雄倉鹿之助屋敷 一 松平次郎右衛門 金田惣八、伊賀村
- 一 富永甚五左衛門 今鈴木市右、岡野八兵衛 一 松平善兵衛 石川式部



一	松平弥右衛門	野々山七左衛門、根石原	文安三年九月十六日勸進願主彦八
一	松平主殿助八	宝王院屋しき	大岡村宮鱒口ノ銘写元禄十一年寅五月廿八日写
一	松平玄番	根石原	松平一郎信廣宮部庄左衛門トア人尋参ニ不知 <small>(申カ)</small>
〇	安藤帶刀	誓願寺ニ入西門	御城之衆
〇	成瀬吉蔵	六句	<small>西尾</small> 酒井雅樂頭 <small>東城</small> 松平甚太郎 <small>深溝</small> 松平主殿助
〇	倉橋内匠	満性寺東	<small>西郡</small> 松岡因幡守 <small>竹之谷</small> 松平玄番 <small>伊奈</small> 本多正見
〇	安藤忠五郎	同所	<small>長沢</small> 松平上野 <small>吉田</small> 酒井左右衛門尉 <small>二連木</small> 松平丹波守
〇	田中五郎右衛門	満性寺西	<small>牛久保</small> 牧野右馬亮 <small>野田</small> 菅沼織部 <small>奥カ</small> 松平美作守 <small>新城</small>
一	内藤弥次右衛門	亀井土	<small>作平</small> 奥平九八郎 <small>大津</small> 戸田三郎右衛門 <small>田原</small> 本多豊後守
	平田庄小白山神宮寺	全 <small>(ママ・仏金口)</small> 口	<small>足助</small> 鈴木喜三郎 <small>小原</small> 鈴木越中守 <small>大給</small> 松平飛驒守

西郷西郷左右衛門

松平源次郎細川

松平紀伊守片原

一家康公上野酒井ト御一戦ノ時隣松寺御本陳(ママ)

余語衣久兵衛

三宅惣右衛門梅ヶ坪

与藤右衛門

被遊、当時鎮守稻荷大明神江御立願被遊不日

一 上野行福寺、知恩寺末寺、城主松平内膳殿御父

将監落城、依之御甲ノ立物三尊ノ阿弥陀を当

長親公為菩提之建立、其後度々炎上寺ヲ里へ引、

寺江御寄進于今所持申候

此義年号相違也

一 三州足立、安立、此二名惣領庶子也、藤九郎森長

一 大林寺末山誓受庵ハ酒井与十郎菩提処、又ハ

ヨリツル也

松平与十郎共申候

紋ウメハチ松平ニ足立権之丞ト云アリ

一 上野隣松寺押鴨中尾ノ城主松平中務ノ寺、信

一 松平主殿内ニ神野勘介、チカラ次郎左衛門両人大

光公三男法名威法全勝ト申、弘治二酉十月九

力ニ而、勘介長篠ニ而主殿守敵取廻打取時、刀

日御逝去

ヲヌクマナクシテ人ツブテニトツテナケ／＼

数人、此時次郎左衛門もハタラク、後勘介無子連

隨念寺門前ニ恵以テ也トテアリ百十五ニ而相

果申候、但不行歩ヲシラス一生主殿より毎年五

十俵被下候、是ハ隨念寺開山ドンヨ上人近江

ウダ久ニテ大樹寺ニ入院之時イトコニテ呼

下シ奉公人ニナシ此縁也

一 加茂郡大沼村木村入道安信、法名東見居士、天

文二年八月十四日死去、同嫡木村新九郎、弟ハ

平井村住ス、勝頼山形三郎兵衛三千騎ニテセ

メツブシ打死、弟六左衛門出家成、大沼一向宗東

順寺、其頃大給之城主佐官入道ノ長男松平飛

騮守為城主ト天正十一年四月十二日死去、法

名洞樹院殿淨貞居士

大沼村洞樹院鑄銘ニ此趣アリ

一 東三河西江七村惣名ヲ太誉寺ト云七村ハ、西

川、中山、萩平、平野、いぶみ、成沢、馬越以上七村

藤九郎守長ノ七御堂と云有、外ニ記置候



右之内西川ノ古城西郷左右衛門、中山ノ古城西郷

宮内伝ニ云、藤九郎森長此七村領シ、此末今ノ

西郷若狭守殿家は也、中山ニ西郷殿墓松アリ

七村ノ氏神坂本三王、只今中山ノ古城ニ戸山

助十郎松平喜蔵保母村住

次左衛門と云者数代住ス、戸山名乗親吉紋  

天文十六年渡利川原ニテ打死也

同東三河白井ノ紋モツカウ也

一 淨安道清禪定門永録五年七月廿一日松平弥 (ママ)

一 保母村禪宗、瀧村万松寺末寺、宝知山妙洞寺ハ (ママ)

九郎

万松寺三代明仲之開基也

一 要實元公庵主、慶長六年九月八日

古辨寶知院源叟道心大禪定門 天文七年六月十七日

右之二通万松寺ニ而写、松平外記殿遣候、戌九

同断施入善根主正山玄心大禪定門 天文三年七月

月十日覚

廿日

一 清康公尾州へ御働之覚、(ママ)森山、岩崎、品野

保母村ハ松平大炊介本地取始也、主殿家は也

一 家康公御時代迄尾州之内村木城池田正入、古

同内松平孫十、中嶋村ニ而打死此末保母地頭

城寺本荒尾美濃守、古城田宮、甲山、安斎、能沢、物

取、新五、志賀、田幡、荒子、前田

前野州大守心嚴信公大居士尊儀

一 弘治二年 前田、蟹江

一 幡豆安泰寺ニ高力道喜ト戒名アリ、又八橋山

同三年 中村、鳴海、科野、笠寺、戸部、

城守ト云アリ、不分明

星崎、大高、丸根、ホウ山、善正寺、鷺津

一 阿知和村ニ松平右衛門ト云伝あり、此所へ井ノ

本寺、多良賀

口村近藤二郎右衛門参、石風呂ニ入申候時、大手ノ

一 吉良小山田村禅宗安泰寺末寺圓通院、此村松

左官遺恨アリテ阿知和ニ押寄申由ツゲ来、近

井次郎右衛門殿城屋敷、并圓通寺持庵ニ而松

藤次郎右衛門早速馬上ニ而弓ヲ以出向申時、左

井殿判形有之由被申候也

官先陳切通迄来処ヲ、先武者弓ヲ以射留メ申

彼寺ニ位牌有

所、敵山ノ脇ヨリ鉄砲ニテ、次郎右衛門カ肩左ヨリ

圓通院隱居御咄覺書

右ニ打拔打死、此義岡崎ニ注進 元康公御簾

ヲ立鴨田村シタノマヤト申迄御出被遊候時、  
両方より相引ニ引申ト申上候得ハ、此所より御歸  
り被遊候由、井口村ノ近藤安右衛門代々覺伝記  
之

ノ朱塗りナル子ゴロヲシキ腹ニアテ、具足  
ノ様ニナシテ出立御加勢申候、其後家康公被  
召出、兎角還俗被致と御盃ヲ被下候時、達而辞  
退被申上候処、御小性衆熨斗ヲ無利ニ口ニ  
(ママ)

一 葵ノ御紋ハ有原成平ノ紋ニテ、太郎左衛門家有  
原ノ信重ト云、此家督御ツキ被遊候故、松平家  
御紋葵也ト大樹寺ニ而承候

入候時、畏入申と還俗申上時、二位法印ト名乗  
り戦功共有之、右初而<sup>ニ</sup>出馬之時、法花経八卷簞  
ナシ、仏具甲ノ立物ニシテ被出候、今ノ上村土

一 鳳来寺岩本院ニ住、安養坊と申者、家康公甲  
州勢ト御戦之時、鳳来寺一山御頼候へ共、外ハ  
合点無之、安養坊壺人五十人程催、其身は八角

一 尾州知及寺本ノ城主、荒尾美作、松平相模守殿  
申候、家忠日記五卷目ニ有之

内ニアリ

一 岡部新左衛門、吉田ニ池田ニ左衛門在城之時、西郡

城代也

新城ノ城代同池田半左衛門

親忠公弟

此代初而保母ヲ切取次深興津ニ移

一 松平大炊介忠景、同大炊介忠定、同大炊介好忠  
長良打死

一 松平久助と申ハ細川源二郎殿家老、今ハ中川  
平井与市

と改ラレ

一 広瀬三宅右衛門方、家康公御働、御陳場フツソ、同  
(ママ)

川ヨリ西花本ノ野台ニ而合戦、并フツソ坂ニ

テ其頃、簀下藤沢村三宅平兵衛廣瀬方ニテ出

(ママ)  
陳三宅コノ下ノ文字消テ不知

明大寺勘右衛門殿有之、古筆写

右件之社宮地田依有要用、永代売渡申所実正也

但彼神田者新六引得之時、酒井左衛門尉殿江借

米ニ向キレテナシ、久々祭退転候、末代公方地ニ

罷成候てハ神慮可及候間キレテナシ

天文三年<sup>甲午</sup>極月十三日

賣主源右衛門

宮地甚左衛門

使 玉屋三郎四郎

能見山松應寺之事

又七

一 岡崎二郎三郎廣忠公岡崎御在城廿四ノ御年

□学参同名中

天文十八年三月六日ニ岡崎城ニテ、片目弥八

六名村文右衛門屋敷

郎と申広瀬ノ佐久間九郎左衛門家来忍奉公仕

昔酒井与四郎居主

廣忠公御キウヲ見セタモフ逆縁ニ御はだぬ

満性寺古証又蔵写置申候

き被遊し処、村正ノ刀ニテ奉害、立退処ヲ上村

松監

新六大手先ニテ打留、浅井ノ松井十郎三郎殿

信廣 日高新右衛門と忒人状有之

次ニ御打候、然ルニ廣忠御生正敷シテ御辞世

万コ齋 福嶋左右衛門 出井四郎右衛門、六名カケ山ノ

ハタ サトセヤ四トセノ花ヲサカリニテト被遊シ

城主鳥井又四郎宗運乱ニ落城、永正三年

然者御年廿四カ、異ニ廿五共近代ハ廿七共書



申候、此時誰云共ナク百々村阿知和七人之衆ノ專逆心申取成申ニ付、大樹寺迄御死體送り申事、怪敷義迎大林寺ヲ被仰付、大相寺九代鎮如上人御焼香、則金棺ニテ大林寺阿弥陀堂ニ御入、それより大林寺北ノ野ニテ御葬礼あり、其後大樹寺之隱居林誉上人ニ被仰付、則廣忠公御墓所ニ隱居一字建立、則家康公能見山御意被遊、御墓松カタトリ松應寺と云、一説ニ昔能見ニ正應寺ト云寺有之、此所ニ御隱居後松應寺ト改、之ヲ御墓松ハ松平竹千代後二郎三

郎手ツカラ御植被遊、御塚ハ伊与田七左衛門と申者奉行仕候、御葬礼古老覺咄申候、書留置申候、其後慶長十六年三月廿、從新田義重公十六代大納言ノ綸被成下、同十九年大樹寺ニ御預ケ被成、廣忠公五十年忌ニ初而松應寺御建立、同家康公五十忌ニ御建立アリ、天正三年ニ水野下野守信之松應寺ニテ切腹被申候、又信長公より使者宿、松應寺ニ被仰付御馳走有之と申候、異本筒針ニテ鉄鉋ニテ奉打ト申節有之候、相違也不可申候

一 家康公太閤<sup>江</sup>御出仕之時、京都<sup>ニ</sup>而御召仕名

失念、愛岩山へ立願アリテ毎日〳〵御坂かけ上

がり〳〵相勤被申候時、俄大地震来、此時家康公メ

馬ニメシテ伏見へ御急候時、御供五条ノ橋迄

供シヨクレケリ、御一騎伏見大平先へ御乗付

飛下り被遊候時、右ノ愛岩参詣ノ人計供ヲ申

付御馬ノ口ヲトリ御勝美<sup>ニ</sup>預ルト語りケリ

毎日坂へ上り〳〵たる義、走あかり〳〵シタルシ

ルシナリト申ケリ

一 家康公境<sup>(堀)</sup>へ御趣候時、信長六月二日他界ヲ御

聞、智恩院<sup>ニ</sup>入御切腹可有之御座候時、人数七

十人程御供御帰りノ時、大河<sup>ニ</sup>乗船二艘呼寄

セ、センドウヲイチラシ、鑓ノ柄<sup>ニ</sup>テ柴を河

ニはね、人数ニサウノリ超テ向<sup>ニ</sup>上り、鑓ノ柄

ニテ本多平八船のソコヲツン〳〵トツキ、穴ヲ

アケテツキナガシケレバ、船ハ頓テシツミケ

リ、追掛ル敵ノセマジキタメナリ

一 穴山梅雪大和ノタキニト申処<sup>ニ</sup>テ庄屋ノ七

才ニ娘ヲツカミトリ人数七計<sup>ニ</sup>テ退処ヲ、隣

郷村々出会ヲ乞もツ ツブテヲハラ〳〵打掛

ケレバ、ツブテツヨクウタレ梅雪モ人数モ其

一 延宝三年大樹寺御修復寺中十二間へ金貳千

娘迄不殘打死シケリ

両ツゝ出候

一 於安土宗論、日蓮宗衣ハギ浄土宗ノ大寺以上

一 尾州品野ノ城松平勘四郎信一城番ノ時、品野

意、什物ス大樹寺ニ有之

近所赤津ノ城ニ那須氏同近隣今村ノ城主松

一 家康公御菩提大樹寺、棄誉上人代、千部経三千貫、

原下総守兩人シテ品野ヲ攻、終松平内膳三河

三千俵、供用物

ニ引赤津万徳寺御咄也

一 廣忠様百年忌、大樹寺崇誉上人ノ御代、千部ア

明応二年十月十二日

リ

一 百々村ノ七社権現ハ親忠公御代品野衆合戦

一 寛永十五年大樹寺、新造建立寺中共二月廿二

七人打死七社権現ニ勸請と申伝候、同時に金

日釘始、霜月成就ス

平ニテ近藤七左衛門酒井左衛門尉兩人して打取

一 宝徳三年桑原村大沢山龍淡院<sup>(ママ)</sup>建立開山茂林  
○ 定室妙心 三木田八殿内

和尚天文十三年五月三日焼失廣忠公御建立  
○ 慶忠上村帶刀 浄心阿部九郎右衛門

ア 此下文字消て不知  
○ 了音 酒井二郎右衛門

一 松平ニ松平隼人次郎三郎笹原村松原早藏小<sup>(ママ)</sup>  
○ 道運 松平藏人佐

田原新左衛門  
○ 浄林 上村新六郎

一 松平壺里近所ニ仁王村道関ノ御像居屋敷有<sup>(ママ)</sup>  
○ 周光 松平喜三殿 ○ 赤河三郎右衛門

一 宇沢村渥美弥三郎屋敷有、紋三ヶ月浦紋モツ  
○ 浄光 松平弥七郎 ○ 黒田孫七

コウ  
○ 顕松 松平甚次郎親長

一 元禄八年三月十六日大樹寺ニ而写 鳥山三  
○ 道尊 松平源三郎

郎左衛門忠正  
○ 悦門 松平彦九郎

- 乗心 松平二郎三郎 天正三 七月十一日
- 松平中務 天文六年七月道證ヲシカモノ城主
- 松平田一郎 ○松平越前守
- 悦窓道雲米律治部父<sup>(律)</sup>
- 一峯全休 桜井小浦喜右衛門 天正五 六月廿六日
- 石原傳五郎 鶴田彦市 松平喜兵衛 松平越後守
- 浄心 松平源五郎 天文六 六月二日
- 松平右衛門 松平作右衛門
- 勢心 細川右近 天文六年九月七日
- 山本主善<sup>(膳)</sup> 松平勘解左衛門 三光院旦那已上大樹
- 真清造岡右馬佐 天文八 六月七日
- 寺<sup>ニ</sup>而写天文時代ノ名也
- 道念 中根助市 永禄十 六月二日
- 一 大樹寺なミ松ノ先ヲ淨海山ト云、此処ニ小松
- 三木織淨雲 大永三年五月
- 三位重成地蔵堂建立、只今大樹寺棹舟院ノ地
- 道香 牧内右京 四月十五日
- 蔵是也
- 萬花賀善 アサイ佐馬之丞 享禄三年七月
- 一 信忠様ヲ酒井徳右衛門林藤五郎兩人イサメテ

大濱<sup>ニ</sup>御隱居被成候由申候、大濱<sup>ニ</sup>而御隱居

(1470)  
文明<sup>ニ</sup>庚子<sup>(寅)</sup>天十月十一日 酒井忠勝

屋敷無之候

一 鳥井儀右衛門 石原百吉 御出頭石原平右衛門ハ

一 大濱三千石程時宗稱名寺、禪宗長田寺<sup>ニテ</sup>宝<sup>同宗</sup>

一 疋田与右衛門 酒井左衛門尉代々家老也

林正寺  
珠寺、浄土宗浄行院、清定院海徳寺二本本願寺

一 多宝山高隆寺十二坊寛、但、太閤御代絶、吊ハ幸

宗西方本田寺八ヶ寺

泉坊計、幸泉坊、真蔵坊、正龍坊、恵淨坊、中之坊、

一 境村庄屋神谷氏屋敷酒井与四郎殿屋敷と申

信應坊 東学坊 余本坊 西谷坊 東谷坊 大寺家中

候、禪宗<sup>ニ</sup>而永玄庵古跡、浄土宗来昭寺一向専

寺家以上十二坊御朱印并黒印写有之

正寺わかれの塚、児塚共云是也、永禄八年三月

一 大樹寺<sup>ニテ</sup>写松平勘解由左衛門ハ弾正左衛門子

廿五日<sup>ニ</sup>大濱同六日境八橋見物申候

卜有之

一 大樹寺寺中回向院

一 芳月清春尼 伊田三五郎娘天文十七年二月

十六日 清康公母義

一 明徹道光 林藤介天文九年六月六日安城ニ

テ打死

一 文明十七年三月廿三日 松平大炊介正則

一 永祿中正月十一日 中山弥八郎忠次田地寄進

状壺通

一 大炊介忠正、大須加弥吉、名部田新左衛門、吉田清

吉 天正六年十一月三日

一 慶樹大姉寛正二年四月廿七日 松平和泉守信光公御前

慶長七年五月十九日

一 傳通院知香客譽大姉 松平二郎三郎廣忠公御前

親忠公御袋

家康公御袋

一 皎月珠光大姉永正十年八月廿七日 松平左京進親忠公御前  
大樹寺勢譽上人燒香

永祿三年五月十九日桶狭間ニテ生害今川治部太夫義元

天澤寺殿四品前禮部侍郎秀峯喆公大居士

長親公御袋

今川備中跡ノ文字消テ不知

一 月窓清友禪定尼戊辰八月九日 松平出雲守長親公御内方様

一 心道見桜井初祖内善信定 天文八年十一月廿七日

信忠公御袋

一 竹用院殿西翁心光大禪門天正七年九月廿日

一 玉鏡慈泉大姉永祿二五月五日 松平藏人信忠公御前

作手ニ而打死 但桜井ノ家老也

清康公御袋

右安城ノ城主ニ堀入道道清殿次子平右衛門宗

一 芳月青春大姉天文十七年二月十六日 松平二郎三郎清康公御前

清次平十郎宗正此牌ハ平右衛門討死ニ付為菩提

廣忠公御袋

竹用軒御建立家康公被成候



堀平十郎就討死依無遺跡為

一 松岳光忠居士 安城形部未ノ十月七日

彼菩提安城之内志やくし堂沼力キリ

一 成瀬与十郎 享祿五年三月五日巳上石原善左衛門

道ハ南ノ方有由緒抱之内之池ニ結草庵

一 肥田与三郎 天文六年九月十七日

置所也、同所志之寺領為不入出判形

一 永正十年子四月十日  
井田三郎左衛門 片原三郎左衛門  
鶴田彦市郎殿 伊田新五郎

間永諸役令免許乎、子々孫々

一 春山香雲、松平甚九郎

不可有違乱者也仍如件

一 安忠六月一日、清忠十二月廿七日

天正元年癸酉 家康公御判形

一 心曜誓仰、酒井右近進 上野村出

十一月 日

一 秀山光雲、下ノ小川殿内義 黒田半平

境入道殿

天正七年九月 同半右衛門

此書付大樹寺内竹用軒ニ有之写

是ハ大林寺ノ写也 紀州ニ有り

一 操松元心 松平越前守大永二年十月廿八日

平太郎公ノ御装束ヲ着シテ、城ノ大手ニテヨ

一 心月清安 天正十年八月十二日上里ヲシモ

セタル敵ニ向イ、家康社爰ニテ立腹ルニ見ヨ

上ノ

大音セウ十文字カキ切ケレハ、敵是ヲ見テ実

一 石心誠珍 酒井将監、廿日大林寺過去帳ニ有

ト覚引ケル、其後家(康公脱)関原御帰陣ノ時(ママ)矢作出向

之

居申候処御尋候へハ 殿様ニ御不足ト奉存、

一 心叟浄 赤坂松平右馬亮 松平甚右衛門殿

我社四至屋平太郎が後家と申上候得者、公

左もアルカト御意ニテ手作与七十石被下、其

一 本願寺一揆ノ時、賀茂郡下江知村ノ四至屋平

末中根喜蔵と申也

太郎ト云者御味方申、針崎表一戦ニ公打負六

本多九平衛咄覚書

所ノ宮御入、敵岡碓(ママ)ノ城へ押入ランキス此時

一 松平弥九郎後外記忠次 忠次弟松平長左衛門

信次 景忠幼少ニ付代番 家康公江御奉公  
相勤、右長左衛門法名不知候

一 岩津村妙心寺寛正二年四月廿二日建立、右ハ

妙心院ト云也、開基覚

一 松平主殿殿一家松平長三郎と申、東三河西形

村領シ、後指上ケ蔵米ニテ御取代官鈴木太郎

左衛門と云也

尾州より御請立日光ニ納ル  
此書付十六人ヲサシテ十六ラカンニ繪像武者ニ書  
寺部ノ隨應院ニ有之

大久保次右衛門忠佐  
高木主水入道清香

榊原式部大輔康政  
松平甚太郎康忠

蜂屋半之尉貞次

寄進主

服部半蔵正成

渡部内匠頭三綱

大久保七郎右衛門忠

尊像

本多中務少輔懋勝

鳥井四郎左衛門真忠

井伊兵部少輔真政

内藤四郎左衛門正成

鳥井彦右衛門元忠

酒井左右衛門尉忠次

渡部半蔵守綱

平岩主斗親吉

米津藤蔵入道浄心

大樹塔真木之書付

奉為逆修万疋奉加大旦那世良田次三郎清康安城四代岡崎殿 別紙ニ写

二年二月廿五日  
天文四年

大樹寺守護十六人連判

於大樹定<sup>ムシクアレ</sup>□□事 次第不同

武士判形次第 丸根美作守 岩津様

禁制

一 於当寺中狼藉事 上平左右衛門大夫 親堅判

一 竹木伐取之事 田原孫四郎 家光判

一 对僧衆致非義之事 戸田山城殿 在判

右於背此旨者堅可処 岩津源五郎 光則判

罪料候大樹寺之事 岩津大膳入道常蓮

西忠位牌所上者自然 岩津弥九郎 長勝判

国如何様之儀候共為転 同 弥四郎 信守

人数可致警固者也 同 八五郎 親勝

仍如件 岡崎左馬允 親貞

文龜<sup>辛酉</sup>元年 此貞光判 安心院ニアリ 形原左近将監 貞光

八月<sup>(十六カ)</sup>□□日 牧内殿判明眼 寺ニアリ 牧内右京進 忠高

竹谷弥七郎 秀信

岡崎六郎 公親

細川次郎 親世

岩津源五郎 寛則(ママ)

十六人大樹寺二連判有り

(花押)

永正九年二月一日  
信忠 (花押)

佐々木城主

秀吉 (花押)

松平弾正衛門 (花押)  
安心院ニ有り  
信貞

明応五年七月十五日

後長親

大樹寺有

大樹寺ニ有

瀧萬松寺有

親忠 (花押)

長忠 (花押)

同長親 (花押)

信忠 (花押)

信忠 (花押)

信忠 (花押)

永祿元年

元康 (花押)

大竹大善様有之

七月十七日

家康様初判

天文九年

大樹寺ニ有

久松佐土守

長家 (花押)

信長 (花押)

桑子ニ有り

田原孫四郎

廣忠 (花押)

西忠

戸田家先祖

文龜三年八月十九日

松平三藏

岡崎城主

(花押)

永祿九年七月一日

(ママ)

家松 (花押)

大樹寺十六人連判有

義元 (花押)

信忠 (花押)

萬松寺ニテ写

大濱称名寺ニ有り

信次 (花押)

田中兵部大輔吉政

(花押)

阿部大藏判写八月三日

渡利村ニ有之

天正十七年拾月廿七日加藤喜助正次

(花押)

吉良シコヤ村ニ有之写

秀勝 (花押)

天正十七年十月廿七日阿部善八正次

(花押)

同年 蔵林村小栗仁右衛門判有井内村有之

吉忠

吉良矢蘭村有

同年 加藤喜助正次

天正十七年九月廿三日嶋田次兵衛重次判

高薄村有(落)

天正十七年十一月廿一日小栗次右衛門尉吉忠判

北野太郎右衛門方有

岡村ニ有之

酒井殿へ

天正十八年 水野平右衛門判

浅井村有

一 碧海郡山碕村以前大岡村と申、本郷正法寺本

尊之裏書ニ有之、三河記ニ岡安城両城と書申

一 天正十七年十一月十五日森川平右衛門尉

ハ今之山碕手也、右城織田家より築、松平蔵人

五百人<sub>ニ</sub>而籠り、天文十六年九月廿八日渡り

かわらにて合戦あるは是也、天文十七年四月

十五日明大寺<sub>ニ</sub>而討死

右は三木之城主也

子<sub>ラ</sub>也  
認

一 東城茶臼山ノ城ヲ大蔵ガ城と云、此城ヲ二ノ

宮御攻ノ時彼ノ山より大石ヲ落掛申ニ付終

ニ落城無之ニ付、御家来城内ニ忍入城主大高

弾正と申大将ノ首ヲ取、其身も討死シケリ、此

時二ノ宮より犬塚と云名字被下江原村権六屋

敷ニ犬塚と云有り、家紋桐ノトウ団扇ノ内ニ

鳳ノ一字ヲ付申是也

一 加藤名字ハ出羽国シルビキノ城主ニテ加藤

玄番と申、此末尾州熱田移、加藤喜左衛門此筋

也、紋藤丸ノ内加ノ一字也

一 千種大納言殿紋丸之内和合ノ鶴也

一 永録(ママ)十一年四月家康公ハ信玄被聞駿河乱入、

遠州大半入手、堀川之大沢左衛門尉、二役ノ左(俣カ)

衛門尉、高藪ノ浅原、妙田寺ノ松下、久能三郎左

衛門各属ニ家康公、同十一日今泉四郎兵衛、菅沼

新八等為案内者出ニ井ノ谷ニ菅沼次郎右衛門、近藤

登之介、鈴木三郎太夫三人ヲ入手

一 台徳院様御代三人御小性、(ママ)土井甚三郎、倉橋宗

三郎、長谷川久三郎、此三人三郎と云



一〇 高月縁心

伊田ノ城主

酒井左衛門尉義忠

申ノ十月廿八日

甲玉淨堅居士

酒井左衛門尉

伊田村ニ玉洞院と申  
左衛門尉此跡ノ文字消  
天文五年五月八日 不知忠次とて有之、若宮八幡跡ノ(文字不知)

一〇 道開

酒井与八郎  
慶長二年二月六日

文龜二年壬戌正月十六日

玉洞院殿瑞翁善嘉 酒井康忠

一〇 随念院殿廣忠公妹子、開山吞誉上人此寺清

永祿四年八月二日死去

康公ノ御願有り、開基九年ナリ  
七年よし

一〇 月庭淨光居士 上田慶羽入道俗名傳市郎、天

文子九極月十九日大樹寺十二代進誉上人焼

香也

一〇 祥岳淨嘉居士 上田宗太郎清房年号月日不

知大樹寺泉誉上人焼香也

一〇 道鑑居士 天文九子正月廿九日、上田甚次郎

一〇 大樹寺寮舎宗樹軒 上田七郎兵衛元成造立

也

一〇 大樹寺へ御寄進状、天文二巳年二月十四日上

田宗太郎清房在判

一〇 天文十五年同断二月十日上田七郎兵衛元成在

判

一〇同断天正二年戊極月二日上田七郎兵衛元成在判

弘治乙卯元十月十日駿河雪齋長老道号

一〇臨濟第二世勅諭宝珠護国禪師大原学大尚和

泰源共

リンサイ寺  
云実松寺  
カスイサイ 三ヶ寺 兼住

一〇昇蓮社愚耕進誉上人、天文六年七月十五日大

樹寺十二代、西谷隱居

一〇大樹寺八代宝誉上人ノ時、清康公是ノ字ノ御

夢見と

一 大樹寺鎮如上人、弘治二年正月五日往生御簾

文書被申候酒持

三河記ニ有

一 本多中務と申者永録三年五月廿二日、尾州大(ママ)

高ノ城ニ家康公御座候時、今川打死之由聞へ

岡崎へ御退之時、跡ニ居申覺有之侍信州義光

流三州イナノ本多修理と申、此末今ハ本多下

修理共申由

総守殿内本多伊織と承候

一 碧海郡東端と申所へ杉本卿信義と申公家流

罪有、此所終ニ草切シテ後三男有リ、惣領ハ東

端ニ而杉本と名乗、次男ハ西端ヲヒラキ杉浦

と名乗り、三男大濱ニ居シテ都筑と名乗り壹

本杉紋ニ付候由承、棚輪村之百姓系図ヲ持一

見人覚咄申候

都筑隼人佐渡入道長親公御時代桑子ニ証文

アリテ一見、桜井与惣右咄也

一 本多豊後守清秀

尊氏將軍志村以下之凶徒可相守之旨

賜御教書、其時尾州横根栗飯原等

同 右馬亮助秀

ノ證文ニ通所持仕候、清秀より七代

同 豊後守助定

祖助秀豊後守豊後国本多ニ有と

助定産故代々本多豊後守を相續仕候

同 修理大夫清重

御先祖長親信忠公へ御節仕候御代より

同 彦三郎信重

君臣ニ罷成  
但助定より成申候

清康公享禄二年下地合戦ニ御供

仕御油繩手ニ而廿三ニテ討死

同 彦三郎廣孝豊後守、後越前守改申三州大

鳥居

井城ニ有り廣忠公より廣ノ字ヲ

タマハル、後田原ノ城より岡崎城ニ五万

石

同 豊後守康重弟備前守後白井へ弟丹後守古井ニ

同 伊勢守忠利 岡崎城主

同 越前守利長 遠州横須賀城主五万石

一 尾州知多星崎城主岡田助三郎、家康公御攻

取之事

一 安藤金助屋敷桑子ニアリ、末ハ帯刀殿内ニ安

死天文十四年とアリ大久保ニ有り

藤小兵衛新介、共云、息直右衛門と申候

小嶋ナグラ弥大夫と云者ノ屋敷ニ高部屋ホコノ介ト云有アリト伝候

宇津与三郎 大久保藤五郎事也

一 吉良小嶋城御攻清康公御代、小嶋より西ニ大五

一 大久保新八郎、林藤介天文九年渡利合戦ニ覚

山と申ニ取手拵藤井より攻、城主水レニテ川ノ

有由系図見へたり

淵ニ飛入、二十丁程クゞリアアラ川山ノ下落合

柳藪陰ニカクレテ敵ヲコト／＼打取現運と有

江出立退、後ハ大呂ニ隠テ医者仕名字不知、享

り

禄二年ノコト小嶋ニ本城ニ鷹部屋ホコノスケト云アザナ有リ是ヲ城主と申候

又家族御申候

藤原氏

栗田関白道兼十世孫泰綱為二嫡

景綱

宇津宮尾張守

從五位下

貞綱

下野守

泰家

(宗九)

五男常陸守  
左衛門尉法名蓮知

時綱

同三河守  
左衛門尉法名蓮意

泰藤

同左近將監三州和  
田妙国寺門前住  
法名常蓮

常意

宇都ノ宮ヲ改メ  
宇津ト稱ス

道昌

宇都息男  
松平信光公奉仕

常善

若名辰君  
宇津八郎右衛門  
信光公奉仕

忠与

同三郎右衛門  
法名覺永

忠茂

同左右五郎  
法名現秀

大久保新八郎淨昭聳

女 笥又藏

女 安井殿

女 黒柳孫左衛門

忠俊

同新八郎  
法名淨昭

此代至テ濃州大久保  
藤五郎武者修行ニ来  
新八郎と申合、天文九  
年安城乱ニ藤五郎討  
死仕、此時改大久保と  
候

女 本多久二郎

女 富永久左衛門

女 大津土左衛門

大久保喜六聳

女 安藤対馬守イキ

女 川上久助

女 榎戸清右衛門

女 小笠原孫六、松平式部殿内有リ

幡豆郡安太寺ニ而写

一 幡豆知行方東須崎江至川切西者、

永正十一甲戌三月六日

一 法名前撰州太守(大)

天岑テウ紹恩大禪定門

小笠

宮崎山共山者北野谷八幡境付大山小原

原撰津守信重

山分、於郡中諸不入事聊相違有間敷事

永祿十三年霜月十五日 御倉渥美郡和地

但境目之事可為憲法事

一 法名前撰州太守(大)

一雲了賀居士

同撰津守

家康公幡豆御出馬之時、方ノ原ノ橋田山ノ

庄赤羽根ノ城主  
信康

同御息赤羽根城主佐太夫殿 家老

イナボ御前ヨリ御船ニメシ、西ウラヲ幡豆  
ノハシリツ付着船則鋏畑村ニ而上り、アラ

伊奈金右衛門

大竹團 六

ク川スサキニ御本陳居、川ヲ隔御合戦有之、  
城中より弓ノ名人佐野、小太郎大弓ニ而イ

小笠原被下証文写

カケ、此時又 家康公片原ノハシタ山へ御  
引ニ而、家老大竹伊奈召寄扱和請(談セ)、此時此神  
宮被下候よし写

一 両城相違候間敷事

一 同名相違有間敷事

右於此旨(輩カ)北在者

寛正四年ニ

上梵天帝釈下者、四大天皇惣日本国中大自在天

高田専修寺勢州一身田御引候、中興十代真慧法

神一代之念仏致、無今生白癩黒癩、於来世而無間

印此時關東御供申来八人有り、後宝樹院、連蔵院

ニ可落者也、依起請文如件

是也

永録七年(ママ)甲子四月廿日

家康御判

慶林坊 尊成坊後玉宝院 香正坊絶ル

幡豆ノ

寺部城主

慶恩坊後覚知院 長岡久蔵八人之内  
是八人ノ外也

小笠原左衛門尉殿

養子権之尉ハ家康公下腹ニテ後

信行坊、觀明坊、皆成坊、大蔵此四人越前

吉利支丹と成、御意違幡豆立

退大坂ニ籠城と申候

同所

へ別レ身退也

掛村城主

同 新九郎殿

一 六條ノ有房より高田三代頭智上人参候状一身



田有之

一 林龜之介打死、御油ノ台<sup>ニ</sup>而、則石塔有り

一 永祿六年和田妙国寺前<sup>ニ</sup>而家康公御合戦之

一 慶長六年三河寺領附、同八年九年豊後守惣檢

時、大樹寺より透譽祖洞と申大力僧<sup>ヲ</sup>陣場為見

地入

廻遣之、敵方改之申時大樹寺より為見廻行使僧

一 箱根サ、ハラ<sup>ニ</sup>而一柳監物殿討死、石塔有り

と申<sup>テ</sup>紙簞へ紋書<sup>テ</sup>モタセ行所<sup>ニ</sup>敵コレ<sup>ニ</sup>

一 平親王正門<sup>(将カ)</sup>関原<sup>(東カ)</sup><sup>ニ</sup>而田原藤太打留其モクロ

サカラウ時、祖洞挟箱ノ棒ノ櫂ノツヨキ<sup>ニ</sup>テ

追来江戸神田妙神下<sup>ニ</sup>祝入、其時奥州給ル、正字ノ元

敵六人ナギタオシ残敵ハ去ル、家康公聞之御

祖也

機嫌有り

一 神谷氏碧海郡高鳥村より惣領家紋コクモチ<sup>ニ</sup>

一 家康公御面目、服部彦太夫、打田彦八、石川門右

上羽蝶也、高棚村ハ庶子<sup>ニ</sup>而家紋丸之内三ツ

衛門、羽根田与市

引也、系図ハ青野村、百姓持、五十年前<sup>ニ</sup>簞

本ノ神谷へ遺ス

郎室村ノ城ヨリ出東祥ニテ打死、義明之息遠

一 吉良元祖新田ノ末、吉良義氏と申信州小室ノ

州ノキビト申所ニ退、今吉良殿義明ノ彦也

城小笠原ノ庶子、三河幡豆移小笠原改吉良と

富永半五郎光勝

申、荒川殿ハ二代目よりハカル、今川、一色、石道一

一 其頃富永弟伊勢ニ出家シテ徳玄と申、此合戦

家也、家老ハ富永万五郎、斎藤宮内、兵道、小見、三

聞渡海ニテ、吉良東祥ニ来シンガリヲシテ多

浦、相場等也、小笠原右近殿一家也、玄札ノ咄覺

打取打死ノ墓有り、吉良御家人十七人東祥を

一 永祿四年東城主へ左兵衛又義明と申候、岡崎

取廻シ居申候、団野金左衛門と申も有し

ノ押ニ室村之城主富永半五郎、東ノ押ニ幡豆

一 義明永祿七年一揆ノ時、家康公御免無出家高

小笠原左右衛門新九郎、中野城斎藤宮内、南西

山と申、京立退六角堂ニ御座候、其後斎藤色々々

ノ押也、兵道、三浦、アイバ等也、然ルニ富永半五

御詫言申被召出候、因茲吉良殿尔今六角堂御

宿ニ被成候

一 荒川殿後御詫言ニ而被召出候、吉良と従弟也

タイトク院殿之時伏見ニテ被召出候

吉良十七人

小笠原石原ト申候 大場 富永 大河内

斎藤 相場 瀬戸 河上 兵道 団ノ

大塚 三浦 一色 松井 筑跡の文字消テ不分

田口村宮棟札写

参陽額田郡中山江田口保熊野三権現 沙弥藤原右徹入道氏茂

二百五十五年貞享二丑年迄

沙弥 善性

犀熊性連

岩屋金吾

本所領 金光寺末流勝慢寺住持覚阿弥陀仏刷証明帰敬袂

運澆香蘋繫□甘伏乞納受再拜永享第四壬子三月十五日

大工兵衛弘重

一同壹枚

奉蓮月熊野三所権現御社

(称)天野 三郎左衛門政次  
称宜

文明七乙卯二月廿二日額田郡中山江田口保大工藤原太郎兵衛光重

二百十年貞享二丑年迄

一 佐橋ハ越前ノ左橋より出ル、後三州ニウツル

一 山田名字ハ尾州熱田より出ル、保母勝鬘皇寺有

り

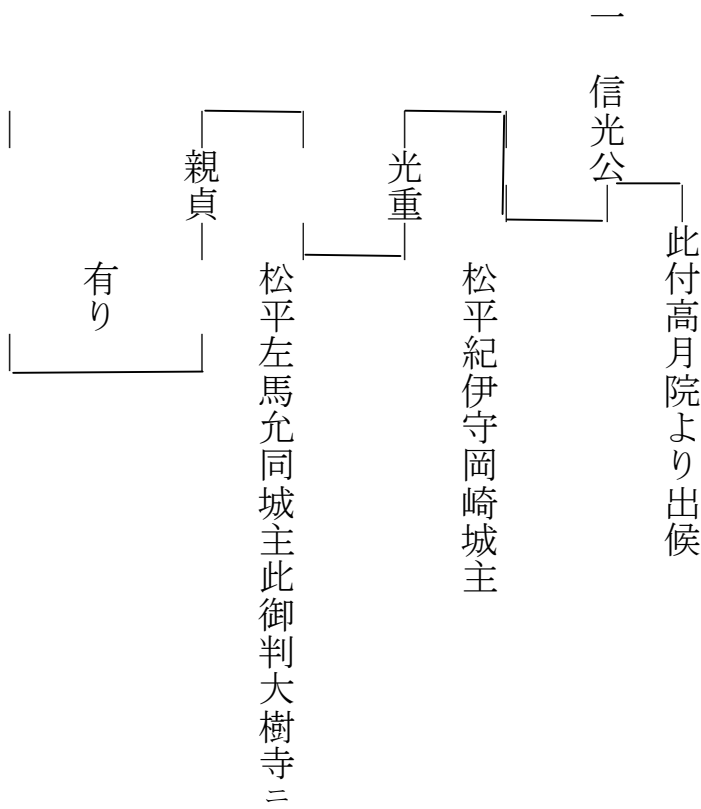
一 柴田ハ常陸国カシマノ庄柴田より出ル

一 矢田ハ奥州矢田ハンクワン正清ノ筋也、和泉

田城主矢田作 跡ノ文字消テ不知

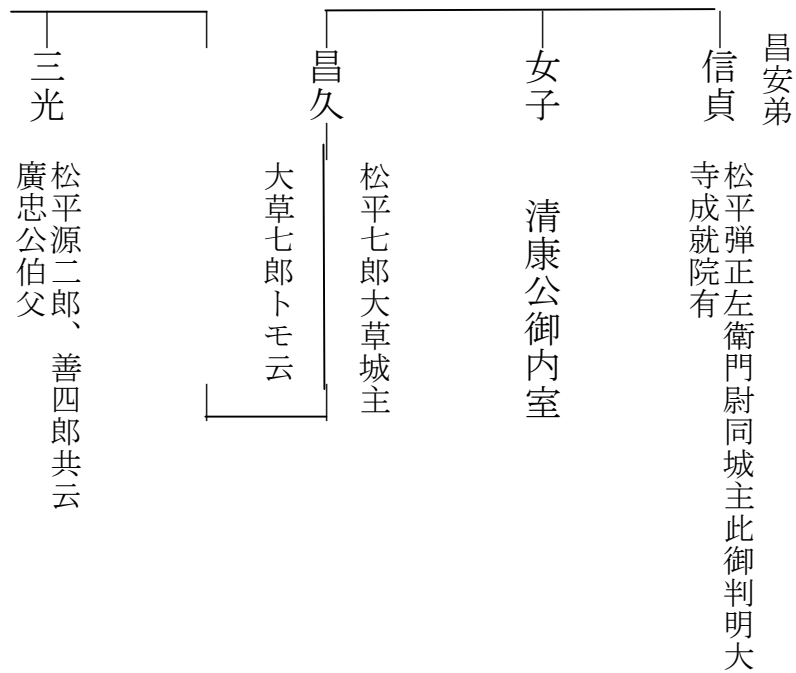
一 奈良興福寺二万五千石九十三軒寺中両宮様

二軒、右寺僧之内ニ法蔵院七十石朱印有、鎌鐘  
代々免出ス家也、惣坊と申寺中同七十石有、南  
都諸白造日本売申候、本名酒也



先祖源性<sup>ニ</sup>而三州幡豆郡相場村之人松井金四

覚



郎と申候、其子初名松井左近忠次<sup>ニ</sup>而候、後賜松平又賜康ノ字名、康親任周防守先祖金四郎法名宗喜ト申候、右ハ此方系図<sup>ニ</sup>有之候、其外家へ権現様より被下置候、御書物十六通、同名甚九郎と申物領筋之方<sup>ニ</sup>御座候、松平有馬殿<sup>右方</sup>より参付也渡利村孫左衛門と申者娘おたつと申 家康公御乳ヲ上ケ申候、随念寺御咄也

親忠公二男 瀧脇ノ代官加納權之介より来也

一 松平加賀守乗元

同三郎大夫乗清

二年共 弘治元年三月五日尾州より攻此時三郎大夫討死

同久大夫 正乗

此代小田原合戦ニ表<sup>(兵)</sup>糧御合力仕其上さよの中山ニ而御茶ヲ上ケ、此時為御加増七ヶ村給ル

同出雲守

乗高 代々家老加納權之介 是より瀧より来ル 龜坊出家 松平出雲守法名性心院白雲乘高居士

同監物

一 御宿左右衛門今川ノ家人駿州高福寺之城ヲ

預り、三州安城之城ヲ攻、今川落居ノ時、上方ニ

テ上り御宿越前守と申大坂籠り、末甲苻様ニ

有り

一 広瀬之城主 息律守 家老<sup>三宅大膳 河原民部</sup> 息家

康公御小性 馬廻七十五騎<sup>三宅加賀守内豊後同善次郎 高見軍之介</sup>

知行五千貫 五万石程 今井甚介<sup>小自見村</sup> 三宅岩喜

息辰之助

一 額田郡中山庄古部村ノ宮ノ棟札ニ奉造立天

王永正十二年乙酉二月中旬、願主松平修理進長

異本有

則古部郷、此年号貞享四年迄

一 親氏公 松平居城 長祿元 四月廿日御逝去

一 浮貝村へハ岡崎より五里余、名古屋へ四里此所

一 泰親公 同所居城 応仁元 九月廿日御逝去此

<sup>ニ而</sup>酒井左衛門尉取手ヲ拵戦、尔今其取手有

三代年号異説有之

古老咄<sup>ニ</sup>三百人程打死ノヨシ申候、三吉村より

一 信光公 岩津居城 文明二 七月廿二日御逝去

半里程有之

一 親忠公 安城主 明応九 八月十日御逝去

岩崎へ三吉より三里程、此所大郷<sup>ニ而</sup>古城跡有

一 長親公 岡崎落合氏継嗣養令娘嫁 文亀二 八

り、清康公御攻合戦有り、古老ノ咄<sup>ニ</sup>二千程打

月廿一日御逝去

死と申候、高崎立名ノ咄也

一 信忠公 同所居城 享祿四 七月廿七日御逝去

三陽軍記ト云式十卷之抄有之

一 清康公 同所居城 天文四 十二月五日御逝去

一 廣忠公 岡崎居城 天文十八 三月六日御逝去

之内有之 自近殿

福髮寺ト云  
屋敷有

一 日近郷之内、額田郡之内名之内、柳田、笠井、竹沢

家老かさいニ神若久左衛門、同小楠村之浦野  
久蔵 毛呂村 大山市蔵名之内 竹之内彦大夫、山

連 飛尾、桃久保、赤田、上毛呂、下毛呂、桐山、蘭村

之内角平、柳田村鈴木惣蔵、横山五郎右衛門、飛

十壺村

尾村荻野勘太夫

右之内ノ城古高羹師後右門入道心以、其後惣

一 横山ハ相州より没落下山之和合村キ子ツキト

持寺今之高性院、其跡也、其後奥平監物同久兵

云所ニ住ス

衛、弘治二年松平甚太郎為御名代、名之内取掛

一 水野太郎作 家康公御小性(マコ)ニ而大見藤六ヲ

申時、麻生村細野之田尻と申所ニ、家康公御

打取、今紀州ノ水野平右衛門是也

旗立申候、但名之内山ニ有之取手也、本城ハ村

覚



元禄三年三月十一日

誓了願居士 嶺月淨皓居士

一 本多作左衛門本国三州大平 同作左衛門同所

鬼作左之事

同作左衛門重次同所

關東ニ而死去

太平

同九藏重玄 同孫左衛門 同内藏 同伊豆守

同孫太郎 越前松平二万石取

大樹寺中 永禄元年二月三州寺部合戰討死仕候

一 呈揚院本多作左衛門建立之察也察カ絶申候

九月廿四日八面村ニ而九左衛門と申百姓

咄覺書

一 荒川殿御屋敷、山田市郎左衛門居申所也、本城ニ

三ノ丸ノ城跡見ヘリ荒川と申者

一ニ吉良ニ荒川ニ今川ニ一色と申候、又荒川太

夫殿と申千三百石取被申候、屋敷有荒川家来

中根藤左衛門、鳥居、岡田、加藤此等八十三人今川

桶バサマ合戰ニ戦死、今ハ尾州ノ荒川小次郎

是也

一 以前大目起合戦と申ハ、知田郡より渡海ニ而吉

良押寄此時戸ヶ崎村戸ヶ崎四郎頼住迎、荒川

ノ甥也ニヨリ、荒川一所ニ大目起ニ出馬并矢

田村乗立赤羽根ノ高橋出戦四郎頼住討死、尔

根ノ城籠り敵より岩根ヲ放火ス

今大目村ニ大将藤嶋と云有り、又頼住ヲ神ニ

一 小豆坂合戦之時岡崎ノ城、鍋田美濃守有りて

祝ヨリスミノ宮迎、九月廿四日祭礼有り分明

織田引請ケ之由申候、但此鍋田ハ安城ニ居申

不知、此頼住ノ男子出家シテ、法蔵寺中興と成

候由承候、岡崎ニハ廣忠公也

タモフ、又大目起上圓寺旦那ニ而阿弥陀ナキ

一 永禄三年五月五日、信長卿今川方と聞テ、実相

タモフ事

寺塔ヲ見付早々放火イタサセ申候、池鯉鮒ニ

一 八面村ニ石川と云処有、石川出生天王ノ神主

而見付候、此実相寺吉良先祖義兼建立之寺也

石川と云也、又笠松殿と云あり、野寺本證寺有

其後鳥居伊賀守遠州古堂ヲ引建立ス

り今又左衛門屋敷是也

一 長瀬村 家康公御代七人衆と云あり、別紙書

一 大平糺(配カ)ノ時忌川矢作合戦之時、忌川ノ一家岩(荒カ)

トス北野之内シガスカノ渡し其上ニフナハ

シト云所あり、北野村之内シトノ前と云あり

シ、カイト云所有り、此イハレハ尊氏將軍関

東御下向之時、俄ニ大河水出候に付、大門村八

見宮へ御立願ありし、此鹿ニ疋出川ノ案内仕ひき

込、右之鹿塚ニテ身ヲフルイ一疋ハ八幡ノ宮

ニ入、此所ヲ尔今シ、ガイトと云也

一 其後 家康公御代戸ケ利村ノ嫌田名字、此渡

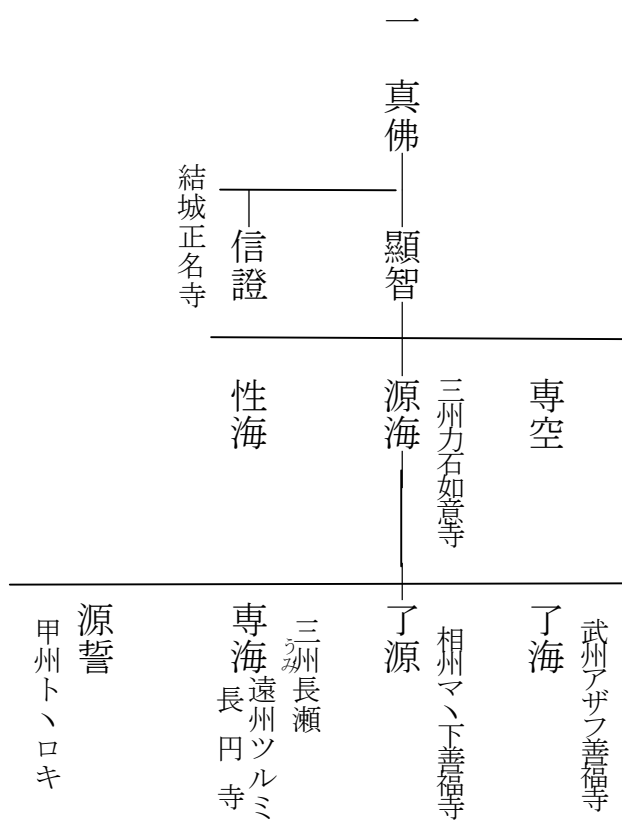
シヲ御案内申深津と云名字ヲ被下、三州ノ深

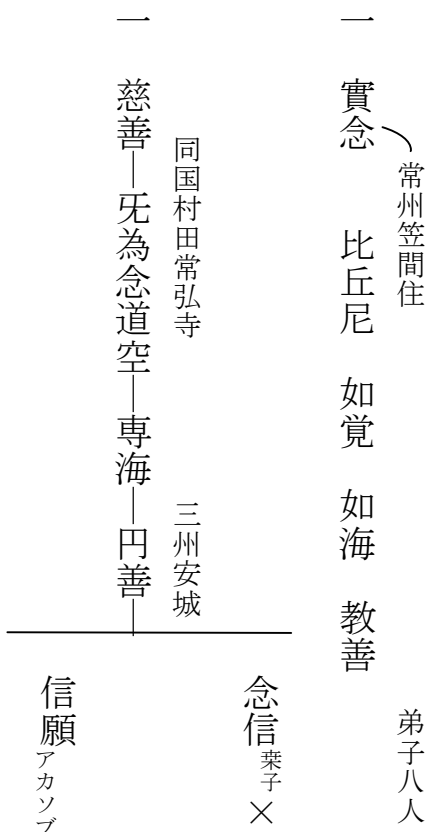
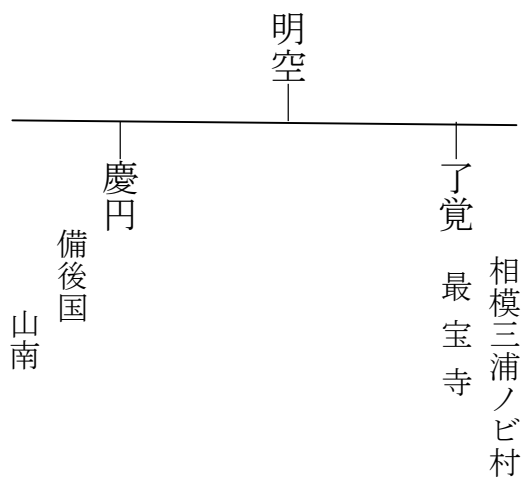
津ト云此筋也

一 岡田氏吉田善名村(良)より出ル、紋丸ノ内ケンカタ

バミ、裏紋丸之内ニ釘ヌキ反り、古来去来家人

其末尾州ニ有之





一 常州壽命寺  
入信—信願—唯円  
弟子六人

×慶円

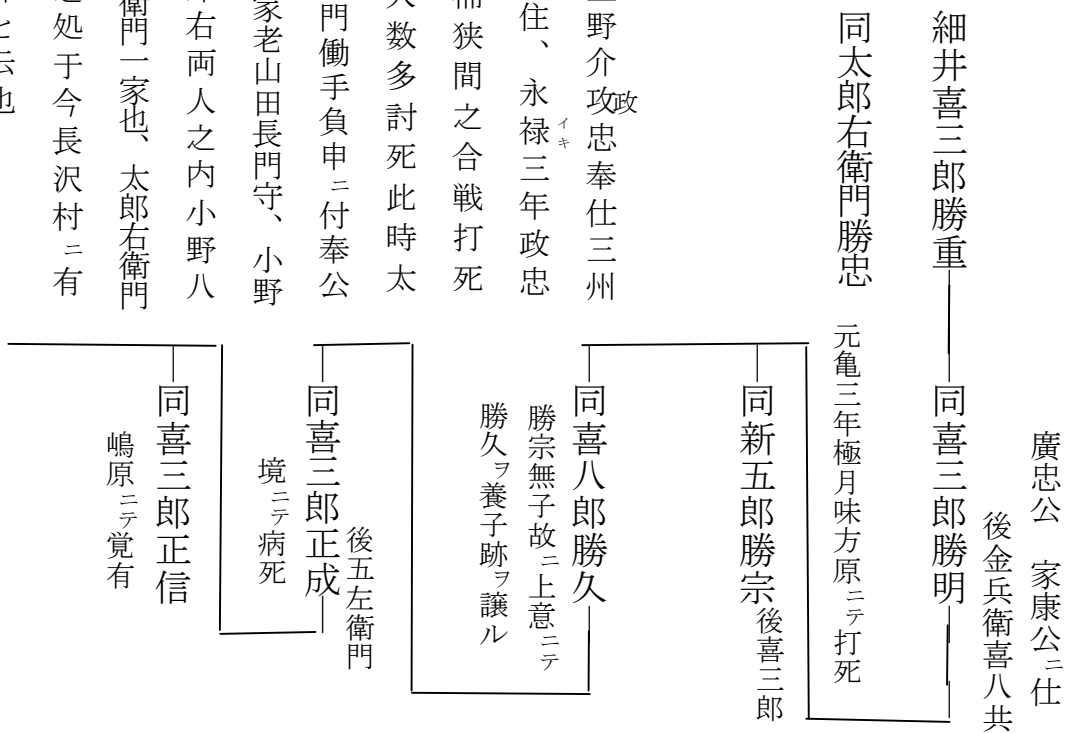
専海  
元龜元年九月九日

細井家之覚 但前ニも有之

一 三州吉良細池村ヨリ出生、又古井出生共有り

清康公ニ仕、天文四年極月廿七日伊田ニテ打  
死

松平上野介攻<sup>政</sup>忠奉仕三州  
 長沢ニ住、永禄<sup>イキ</sup>三年政忠  
 尾州桶狭間之合戦打死  
 同家人数多討死此時太  
 郎右衛門働手負申ニ付奉公  
 不仕卜家老山田長門守、小野  
 与十郎右兩人之内小野八  
 太郎右衛門一家也、太郎右衛門  
 居住之処于今長沢村ニ有  
 之細井と云也



細井喜八郎永禄六年ノ一  
 揆、青崎かまがふけニ而打  
 死、無子と云説あり又伊田  
 合戦ニ打死共云

紀州ニ有之

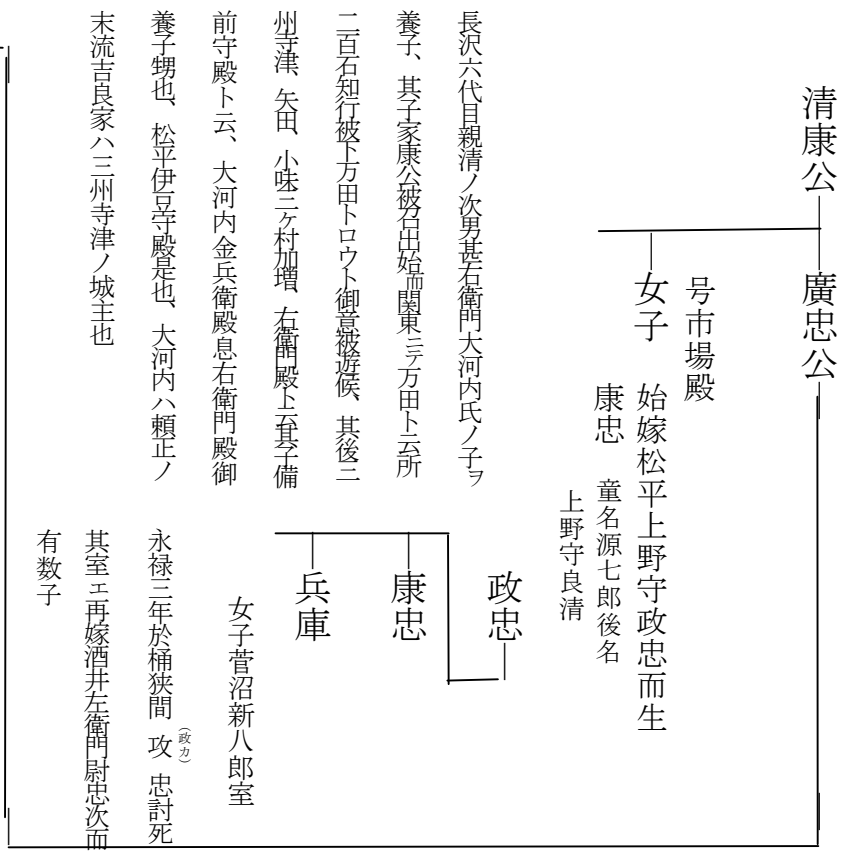
一 松平右京亮<sup>元ハ号甚太郎</sup>をつかハし、三州日近ニ而

打死

評ニ松平右京允能忠と云有り、又甚太郎義春

と云あり

三州長沢系図



家康公

家康公御息女様

女子 三州長沢城主松平上野守康忠室

號矢田殿法名玉峯榮壽大姉

女子 荒川甲斐守義廣室有故而

家康公御妹 義廣為流人秀忠公之御代

御赦免於伏見為大番頭

一 右市場殿義始荒川甲斐守義廣ニ嫁ス、義廣背

大権現ノ命而出走江州、故ニ市場殿ハ筒井主

殿頭室ニ被仰付、於京師逝去シ玉フ二代目ノ

甲斐守八台徳院様御代御赦免被召出候

廣忠公御代明大寺合戦打死

一 市場殿 家康公御妹、寛永十年二月廿三日、諡

一 竹尾戸市

物領三郎右衛門 二男宗久―善助

宗久二男  
惣領但馬

玄光院

瀧村万松寺過去帳ニ有之

荒川甲斐守義廣死去永禄十年於江州死、諡

竹尾屋敷野場村ニ

不退院

本願寺宗専光寺屋敷ナリ

同子息嫡子八甲斐守卜云

住持 龍沢

二男八平右衛門住尾州

三川国額田郡瀧川保慈應山萬松禪寺信心施主当国松平和泉入道信光

三男八次郎九郎住尾州

奉掛鎮守八幡宮御宝前

女子八松平金弥妻、寛永十三年十二月十九日

永享十二庚申八月吉日松平和泉寺守信光住持瀧沢法三末龍沢流

死ス法名耀泉院殿明誉相貞大姉

三州額田郡瀧川保慈應山萬松禪寺

萬松寺ニ有之

当寺開基前泉州月堂信光大禪門



鳥須薩摩明王

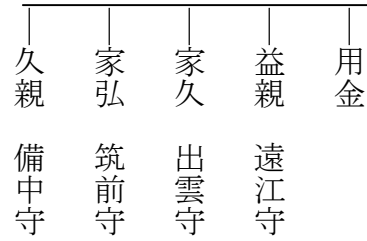
製札(制)

永正十七年十一月日 信忠在判 同寺ニ有之



松平御系図 親氏弟泰親

五男



親氏

松平太郎左衛門尉永徳元年三州松平太郎左衛門尉在原  
信重無男子、此人為智相伝永享九年四月廿日卒、法名  
芳樹院殿後山徳翁大禪定門

泰親

松平太郎左衛門尉文安三年九月廿三日卒法名  
良祥院秀岸祐金大禪定門

信光

松平左京亮後和泉守永享年中三州石津居城同十二年瀧村  
禪宗萬松寺開基文明十三年安城御手属、遠州金谷ニテ

竹田信スミト御合戦アリ長享二年七月廿二日卒去九十  
二歳  
法名崇岳院月堂信光

松平太郎左衛門尉信廣

文明十三年十月八日  
卒法名宝誉源心八十  
四卒、一説信光公 舍兄

守家

松平左京亮

守親

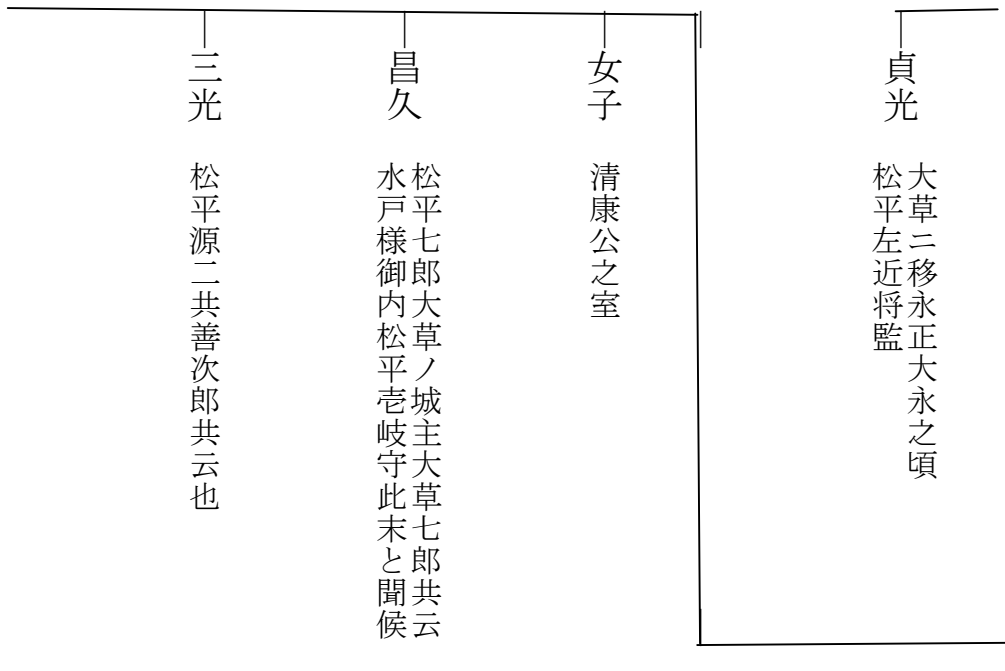
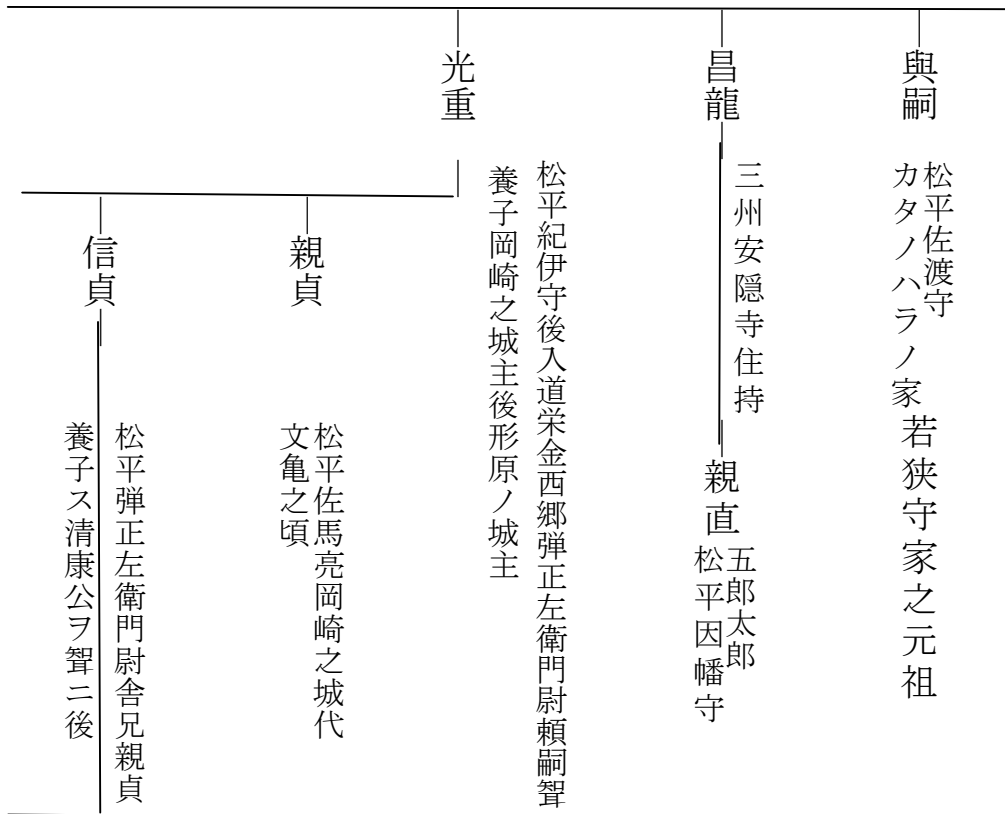
親善

竹之谷

親忠

明應九年

松平右京亮藏人御當家安城ニ居城岡  
碕御手属



伝曰大草城主西郷清海、康正元年岡崎ノ城  
築其子弹正左衛門尉と云、信光親忠ト戦  
後和ヲ入親忠公弟紀伊守光重ヲ為養子、尔今  
本丸城と云也、親忠公御代ヨリ御手属ス、古  
証文ニ見へたり、西郷弾正左衛門尉代々岡  
崎大林寺旦那也

光英 松平八郎右衛門尉

元芳 松平弥三郎主殿介外記家ノ元祖後  
深奥津中嶋居城

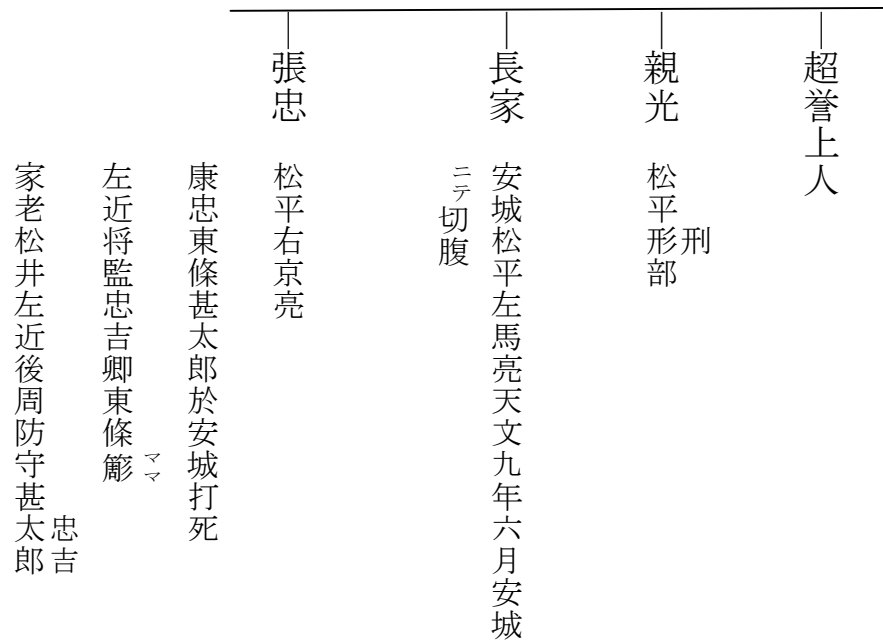
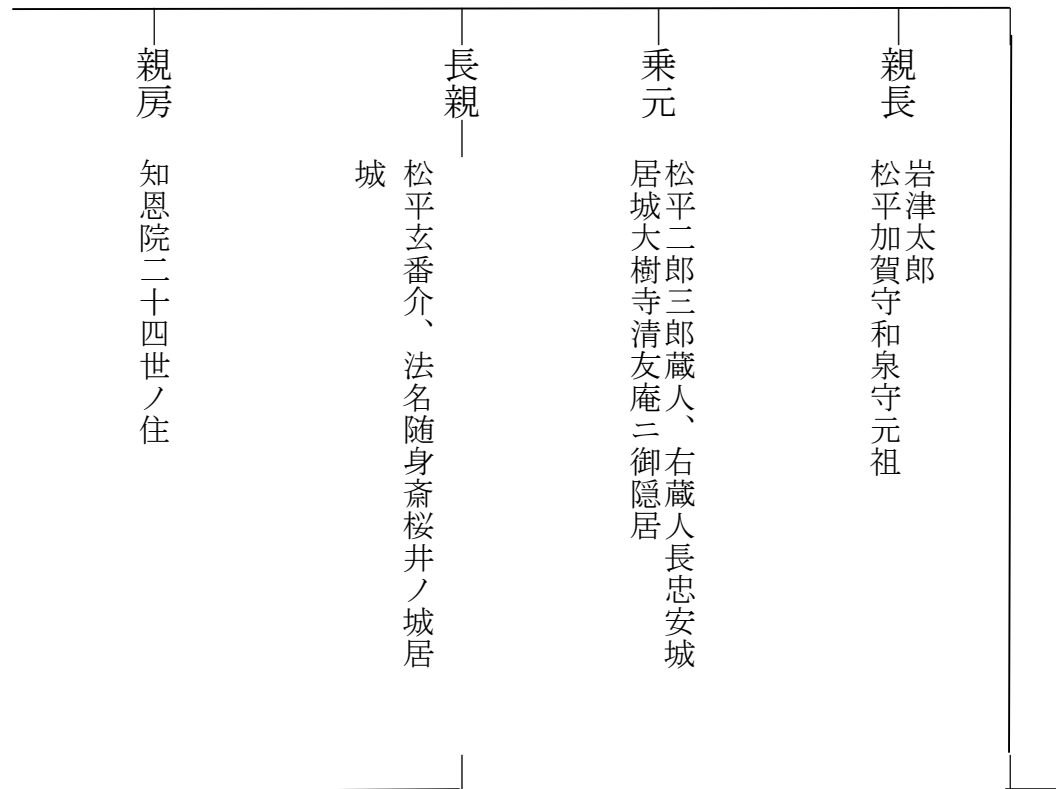
光親 松平次郎右衛門能見ノ城主後岩見守大  
隅守出雲守

家勝 松平美作守磯部ノ丸根ノ屋敷家絶ル

連宗 松平源七郎備中守長沢居城、異ニ泰

親公五男備中守久親、又大樹寺之証  
文ニ又弥次郎親則此元祖と云分明  
ニ不知候、但大樹寺ニハ親則ノ証文  
有之

親元 松平弥左衛門若狭守吉良東城居住  
廣次弥左衛門、廣之彦左衛門、廣国新平



<p>信忠</p> <p>松平二郎三郎藏人安城<sub>ニ</sub>居城後大濱<sub>ニ</sub></p>	<p>親盛</p> <p>松平右京亮福釜<sub>ニ</sub>住</p>	<p>信定</p> <p>松平内膳正桜井居城</p>	<p>利長</p> <p>松平彦四郎藤井<sub>ニ</sub>居城</p>	<p>義春</p> <p>松平甚太郎右京亮</p> <p>雪峯旭映<small>天正九年十一月一日違申候</small></p> <p>右京甚太郎 戒名違二人有り</p>
--	---------------------------------------	----------------------------	--	---

<p>廣忠</p> <p>松平二郎三郎岡崎城主</p>	<p>清康</p> <p>松平二郎三郎初安城居城</p> <p>岡崎弾正左衛門信貞聳</p>	<p>信厚</p> <p>松平藏人三木ノ城</p>	<p>長忠</p> <p>松平十三郎三郎浅井城<sub>ニ</sub></p>	<p>女子</p> <p>吉良持廣内室</p>
-----------------------------	--	---------------------------	---	-------------------------

女子 長沢後酒井左衛門尉忠次室

松平右馬亮忠正

長沢系圖別ニアリ書  
ツクベシ

松平上野介攻忠

政方

長沢七代永祿三年ヲケハ

マニテ打死

内室清康公御息康高息康

忠内室廣忠公御息家康公

御妹也

淨閑

後淨閑

二代有り

松平甚右衛門正次 同右衛門大夫正久

同備前守正綱次 同弾正

松平藤三郎正則

富士見御番衆

秀忠公御代御改易鎌倉ニ入  
息代被召出候

三郎六郎重正藤三郎重清藤三郎重久

藤太郎重廣

宗甫 宗有

女子 中根氏

女子

教山上人 京都誓願寺住持

念誓後 念誓弟 清左衛門 同 八郎右衛門

尾州 同 善右衛門

一 清兼安芸守 右八忠成

一 与八郎忠成 一 数正伯耆守 岡崎城也

一 家成日向守 息長門守 一 修理亮康成

一 豊前守正康

三州碧郡牧内村後高木海脱力ニ移タモフ

高木主水正清秀 法名正順得性寺 自筆状有

志摩守一吉

善次郎正次後主水正ニ成此筋肥前守武州江戸ニ住

善三郎守次此筋伊勢守武州住

修理吉任尾州

内膳八郎左衛門尾州住

忠右衛門 忠右衛門 定右衛門 同所  
権左衛門 江戸ニ住

与惣右衛門 与惣右衛門奥州会津住 志摩守 志摩守

忠左衛門 忠左衛門 与州住 平蔵半五郎 善之介

猪右衛門 江戸住 甚左衛門

弾右衛門 与州住 女 高木藤右衛門

一 遠山甚四郎是ハ中山あそふ保久ニ住、其後伊

勢ニテ打死

子三人

惣領西三河戸崎住

次男助右衛門長沢村住、後赤坂移

三男遠州気賀ニ住ス

佐々木上宮寺

寺女

五代目

如光

十八女

如順

如専

七

勝祐

祐尊

教祐

了祐

如専

勝鬘寺より養子本樹丸、母ハ信州康榮

此二代尾州カリヤスカ  
ニテ切腹永禄七年

戊年

一 渥見太郎兵衛信康公御預ケ植田織部娘二人

異権田

壹人ハ渥見太郎兵衛室、壹人ハ長井右近室也

渥見弥三郎事前ニ記

一 松穩玄秀三月十七日酒井与八郎親父花山道



開慶長二年二月六日、同与八郎金峰貞玉正月

九日 酒井与八内室

酒井

玉洞院

左衛門尉康忠

左衛門尉天文五申四月八日死

将監

忠善

性徳院殿愚玉浄賢

忠賀

永禄八年吉上野一遁駿河

女子 下小川豊前守内室

女子 渡里久兵へ妻

女子

山岡半左衛門妻

慶長十七年十月十七日 忠次御前廣忠  
光樹院宗月九心 公御妹市場殿  
と申候

忠次

小平次小五郎後<sup>二</sup>号左衛門尉其後為左衛門督剃髮

称一智慶長元<sup>丙</sup>十月廿八日卒歳七十

恒城<sup>ツクニ</sup>

先来院殿天誉高月縁心

別腹始出家後号下総守元和二辰十月八日卒

依求院殿拾誉浄哲大徳

女子

別腹西江左右衛門佐吉員妻<sup>(郷)</sup>

藩翰譜 四冊目

二連木 戸田  
松平

丹波守藤原康長者三河国の住人戸田弾正左衛

門宗光後胤なり、宗光初明応年中に当国田原

の城を築てすく二連木の城を築て移る、其男

弾正忠憲光田原ニあり、同国今橋今の吉田の住人

牧野入道古柏と互に地をあらそふ、今川治部

太輔氏親義元の父なり戸田をたすく、永正三年七月

駿河国を立て同八月廿六日今橋の城におし

寄、攻戦ふ事六十余日牧野終ニうちまけて腹

切て死す、氏親今橋の城をもちて憲光ニつけ

られる憲光田原二連木今橋等の城を合せ領

す、憲光が嫡男左近尉政光二連木にあり、二男

金七今橋にあり、牧野入道が嫡男傳藏成人の

後ふた、ひ今橋の城をせめとる、享祿二年五

月廿八日安祥二郎三郎殿と戦ふて清康十九の御時

牧野兄弟討れし後、天文六年に至て、戸田ふた

、ひ今橋を襲とる、同十五年ついに今川のた

めに攻とられぬ、政光が嫡子弹正少弼康光田

原の城にあり、是より次ハ細書ニ而注の如く記

し而あり其文ニ云々

はしめ岡崎の贈大納言家水野殿の御娘を

むかへ給ひ、徳川殿をまうけさせ給ひしか

と、右衛門大夫殿うせ給ひ嫡子下野守殿今

川にそむきて織田備後守信秀にくミせら

れしか者、岡崎殿北方をハ下野殿へ送り返

し給ひ戸田弾正少弼の娘をむかへ給ふ、さ

れとも岡崎の本城ハ我君しらせ給ふへき

所なれハとて、新城に迎入給ハんとありし

に依て、事すてに破れぬへかりしかと、つい

には新城ニむかへ給ひ戸田か不快これら  
の事よりおこりし

やいくほとなくて岡崎殿今川の加勢乞ふ

て下略

モノヲ索搜シ又地理ノ考ヲ加ヘ一集トス

稿元文筆ニ成ル三河藻塩草共

于時七十三

宝曆中マタ訂正ス其卷末ニ

此書をつゝらんと、とし月賤しずかこころをいたま

しめ出来口まゝにつたなき筆をとりて戯ニか

くなん

敷島の道しるへなりもしほ草三河の海の波に宇かひて

かきうつすことの葉くさを我のちのかたみとも見よ水

くきのあと

貞享元年生レ明和四年丁亥七月六日死ス

辞世

やそしあまり月よ花よと詠来て此世の外に

思ひ出もなし

八十四歳  
富秋

此外詩モアリ云

右両人ハ文化ノヒラケサル時ニテ見ニタル

モノナケレトモ其篤志ハ称スヘシ聞クトコロ

ヲ録メ採用ニ具フト云

又外ニ

異山の紅葉尋て詠より唯日本の朱の玉垣

鹿毛ならハ鹿毛にしておけとちくりけ

みな人ことにほしがある馬

一 小原城主鈴木越中守子孫足助町鱸傳兵衛、御

俣を記し置もの也

朱印所持候由

河面伊清誌之明治<sub>亥</sub>年四月東京<sub>江</sub>引被申候ニ

付、一旦彼ノ地<sub>江</sub>持参有之、其後有故明治十六<sub>癸</sub>

三河国旧書東泉記者、松下觀古軒極之秘藏之古

末年岡崎表<sub>江</sub>被来、暫逗留致し被居候砌伊清子

書、元来満性寺寺中東泉坊在世之中三河之古書

ヨリ借シテ写之

ヲ集めし節之旧書也、右之住僧相果て後之住持

ハ親とは違ひ至て旧書等ニ志薄く、自然と売却

シ数冊世間ニ流布シタルヲ、柴田伊右衛門存生

中旧記ヲ好故、不斗右古書落手秘藏シタルヲ松

下鳩臺<sub>江</sub>相讓候趣、毎々觀古軒被語候事故聞シ

于時明治十六<sup>癸未</sup>年花見月

以眼鏡夜ニ写之

右 三河東泉記

愛知県額田郡役所蔵本明治三十九年八月謄写

行年七十四翁

井原政真 花押

